

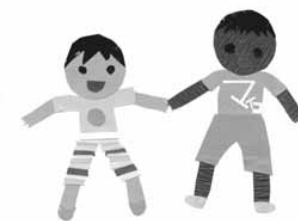
2008年度
独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金助成事業
「キッズアートハウジング事業」事業実施報告書

**キッズアートハウス
は未来へむかう！**

特定非営利活動法人ZEROキッズ
2009年3月

<目次>

はじめに



100日キッズアートハウス・グラフィティ

第1章	これまで	1
第2章	つくる	7
	<1>企画策定	10
	<2>準備作業	12
	<3>空間づくりワークショップ	13
	<4>オープニング	16
	<5>仕上げ	17
第3章	使う	21
	<1>キッズアートハウスの使い方の原則	23
	<2>それぞれの場所はどう使われたか	24
	<3>主なイベント一覧	33
	<4>定期的に行われたイベント	35
	<5>9月の主なイベント	36
	<6>10月の主なイベント	39
	<7>キッズアートハウス利用状況	45
	<8>参加・協力団体・個人	49
第4章	事業の評価とこれから	51
	<1>キッズアートハウスの反響	53
	<2>「新・キッズアートハウス」の提案	61
	<3>実験の終わり - キッズアートハウス撤収の記録	64
	<4>これから - 「キッズアートハウス」事業への提言	
	* キッズアートハウジング事業の実験を終えて (柄田明美)	65
	* 活動拠点を持つ意味と可能性 (神谷明宏)	67
	* 新しい4つの提言 (中埜博)	69
資料		73
	ZERO キッズの概要と活動実績 1993~2008	75
	ZERO キッズの歩み	76
	ZERO キッズの活動の特色	78

はじめに・・・

2008年夏

キッズアートハウスが東中野の閉園になった保育園の跡に生まれました。

生み出したのは、ZERO キッズのこどもたち、おとなたち、

・・・そしてその周りの人たち。

それは100日間の実験でした。

自分たちの手で場所をつくる実験・・・

自分たちがやりたいことをやる実験・・・

その場所をどうやって育てるかの実験・・・

そして100日の実験は終わりました。

その記録と、未来に向かう道筋をここに記したいと思います。

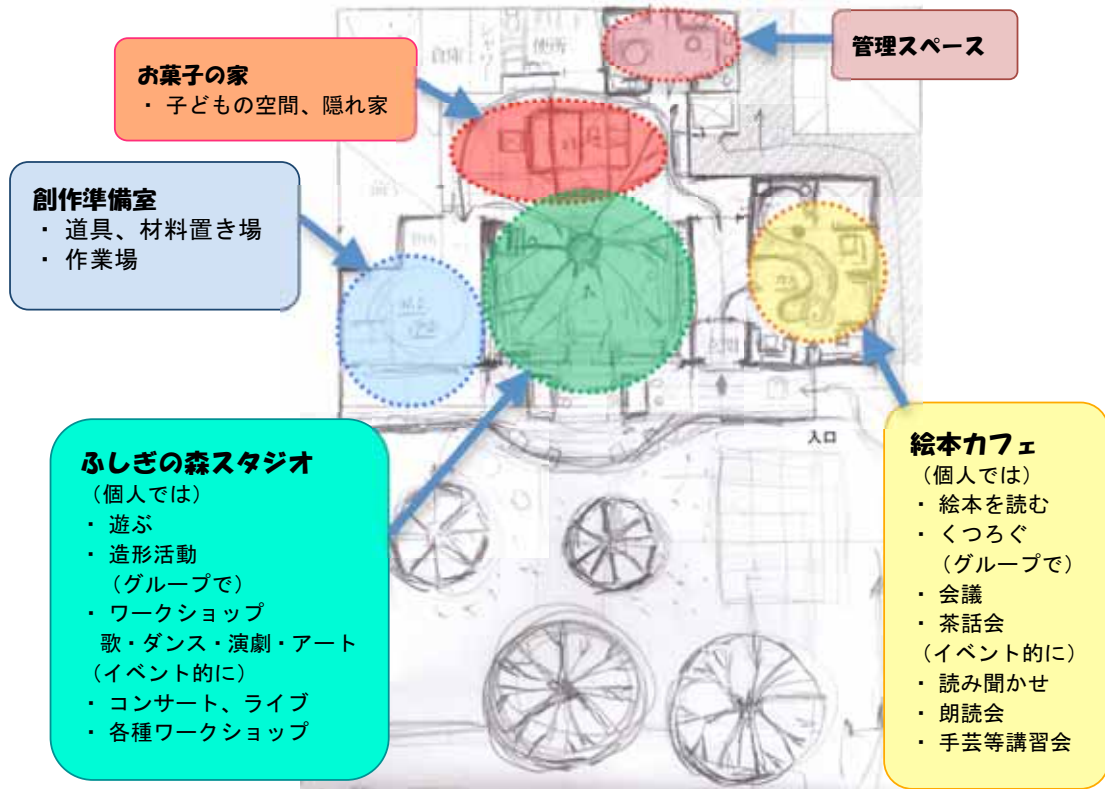
ZERO キッズ 代表 佐々木 香



100日キッズアートハウス グラフィティ



企 画



▲フラン (企画書より)



▲制作前の内部空間



▲完成予想イメージ・・・ふしぎの森スタジオ

.....つくろう!.....

<居心地のいい場所をつくろう> (絵本のへや、7月20日)



<ふしぎの森>
(7月21日~9月6日)



＜お菓子の家＞
(7月19日～27日)



＜絵本のへや＞
(7月22日～30日)





<カウンター> (7月21日~8月2日)

<情報コーナー> (玄関、8月14日)



<あなあなラビリンス> (7月21日)



<看板>
(7月26日27日、8月3日、13日)



.....イベント.....

<オープニング> (8月3日)



<キッズアートハウスまつり!>
(9月21日)



<アントレわくわくワークショップ>

(10月1日)



「こぶたカフェ」by こぶたラボ

(10月10日)



**<ちっち先生と一緒に絵かき
ワークショップ>**

(10月4日)



**<歌とピアノのコンサート
フレリユード>**

(10月12日)



<もりひさし絵本展>

(10月12日~11月1日)





<ハロウィンパーティー>
(10月31日)



第1章

これまで



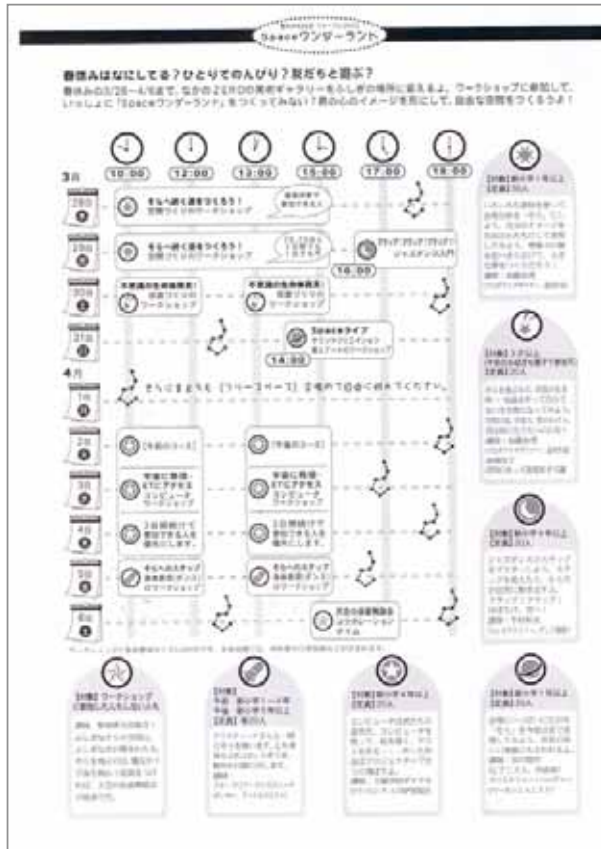
今回の事業「キッズアートハウジング事業」は、2007年11月に福祉医療機構（WAM）に助成金申請を行い、2008年度に実施することができました。初めに私たちがこの「100日キッズアートハウス」以前から「将来的にチルドレンズミュージアムをつくりたい」という夢を目指して展開してきたこれまでの活動をご紹介します。

そもそも、「キッズミュージアム構想」はZEROキッズの5年越しの構想です。「チルドレンズミュージアムみたいなもの」を目指したいと考え始めたのはZEROキッズの設立から10年になろうとする2001年秋くらいからで、企画書を何度も作り温めてきました。なかのZEROの美術ギャラリーを使っの「春休みKids' フォーラム」がその始まりでした。

●「春休み! Kids' フォーラム 2001」



●「春休み! Kids' フォーラム 2002 Space ワンダーランド」



ZERO キッズが 2003 年に NPO 法人として認証を受け、新たなスタートを切った当時の企画書にはこう書いてあります。

こどもたちを取り巻く環境がますます悪くなる一方のこの 10 年間、私たちはこどもたちと共に地域の中で歩んできました。そして 2003 年 2 月より、NPO 法人として新たな活動を開始しました。今、これからの 10 年に向かって、さらなる未来に向かって、「キッズミュージアム」をつくろう！と決意しました。

こどもたちと共に大人が育まなければいけないものは、「夢」です。なぜなら「夢」こそ「生きる力」だからです。ZERO キッズが 10 年やってきたことを振り返ってみると、その基本にあるのは人の力・夢の力です。そして、私たちの活動がつくってきた場所は、

- 1) 私が私らしくいられる場所
- 2) こどもたちが参画してつくる場所
- 3) 友だちと、見守ってくれる大人がいる場所

です。毎週活動場所をやむなく変えながら（毎月の抽選の結果により）、その中で、ジャンルをこえた多種目の体験活動を行い、

- 1) 世代をこえたつながり
- 2) 学校や地域をこえたつながり
- 3) フロ・アマチュア、大人・こどもをこえた学びあい

がなされてきました。さらに家庭や学校だけでは得られない感動体験を仲間と共にし

- 1) 想像から創造へ
- 2) 表現からコミュニケーションへ

と心の世界をも拓げてきました。

このような「こどもたちの場所を常設する」というのがキッズミュージアムをつくる発想のもとです。



● 「春休み！Kids' フォーラム 2003
Space ワンダーランド」



● 「春休み！Kids' フォーラム 2004」

2004年度から2007年度の3年間は、文部科学省委託事業地域子ども教室として、「キッズミュージアム」という活動を中野区内の公共施設を借りながら展開しました。

2007年3月にはなかのZEROの美術ギャラリーを一週間借りての「夢のキッズミュージアム」、2008年3月にはなかのZERO大ホールでの「Kids Alive!～夢のキッズミュージアム2008」というホールでのライブとワークショップを行いました。

●「夢のキッズミュージアム2007」



●「Kids Alive! 夢のキッズミュージアム2008」



以上のように、思考錯誤を繰り返しながらもアートがつなぐ世代をこえた居場所づくりを目指してきました。そして今回、100日とはいえ、今までで一番長い期間、一定の場所でこういう活動を展開できることになったのです。

第2章

つくる



キッズアートハウス

2008
こどもとアートの出会う場所
夏休みから
つくりはじめます！

この場所は毎日毎日創り続けて進化していく場所です

♪ 場所は？
東中野保育園のあったところ、東中野図書館の建物の1階です

♪ いつからいつまで？
7/20(日)～11/4(月)までのほぼ100日間です



♪ 誰でも参加できるの？
作りたい人は誰でも参加できます。こどもも、大人も歓迎です！

♪ 何をやるの？
まずは、みんなで考えて、自分が毎日来たくくなるような、ステキな場所をつくりたいです。材料はダンボールや紙が中心です。

♪ 遊びに来てね！ (以下の日・時間につくりに来てね！)

7/21(月)～23(水) 2時～4時	ふしぎの森をつくろう！
7/26(土) 1時～3時	ふしぎの森のキャラクターをつくろう！
7/27(日) 1時～4時	みんなで大きな看板をつくろう！
7/28(月)～30(水) 2時～4時	お菓子の家をつくろう！
8/3(日) 12時半～2時	お菓子持ち寄りパーティー

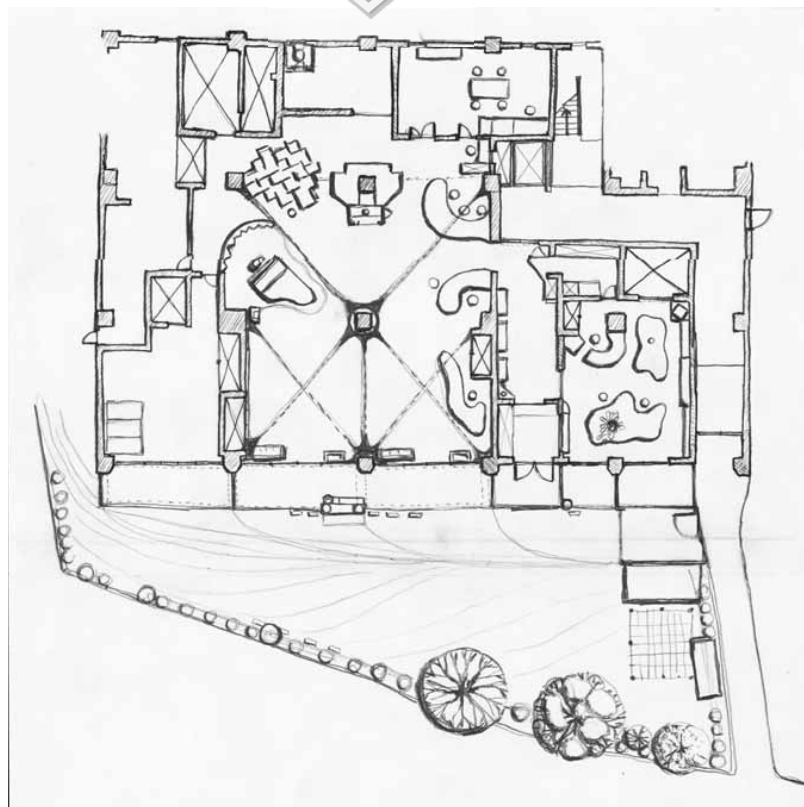
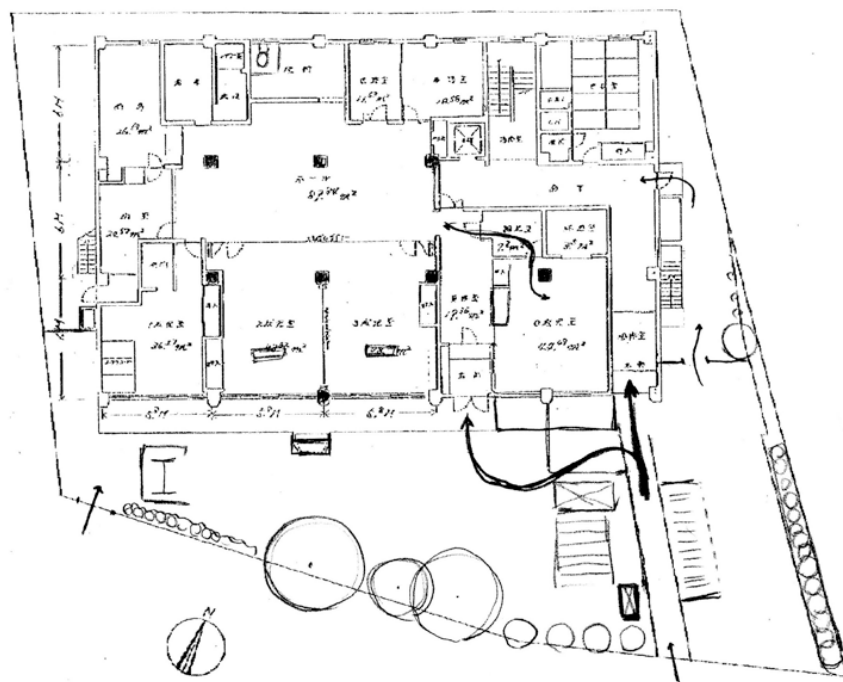
♪ 誰がやっているの？
中野区から保育園だったところを借りて、NPO法人 ZERO キッズが管理運営をします。

後援：中野区

主催・問い合わせ

特定非営利活動法人 ZERO キッズ
 でんわ：6427-8268
 メール：info@c-c-net.org
 ホームページ <http://www.c-c-net.org>

東中野保育園平面図



< 1 > 企画策定

事業概要（企画書より抜粋）

< 目的 >

1. 当会が15年の活動の中で蓄積してきた地域とアートの人的ネットワークと体験活動のノウハウを活かして、

- ・子ども（乳幼児～若者）、大人、親子の居場所をつくる
- ・情報と人のネットワークの拠点をつくる

2. 上記の目的を継続的に達成するために、このような事業の可能性をモデル事業の実施により検証し、実現の可能性を探る。

< 期間 >

2008年4/1～2009年3/31

- ・モデル事業としてのキッズアートハウス 7/20（日）～11/3（月）
- ・検証とまとめ 11/1～3/31

< 場所 >

東中野保育園跡（東京都中野区東中野 1-35-5）

< 対象 >

主に子ども・親子

- ・子ども全般（乳幼児・小学生・中高生）
- ・大人全般（子育て中の親・親予備軍の若者・子どものいない人・子どもが育った人）

< 期待される効果 >

●大人も子どもも・・・参加者の自己実現ができる場

まずは自分のやりたいことをやる、そして他の人にも楽しんでもらえる企画をする。企画のためのワークショップや実験を通して、自分で主体的に何かをする楽しさを発見します。

●子育て中の親にとって・・・自助共助の子育て支援ネットワークをつくる場

誰もがお客さんでなく、企画を提案したり参加したりできます。子育て支援サービスを一方的に受けるのではなく、時に自らがサービスの提供者になり、子育て仲間と共に学び育ち合う場です。

●子どもたちにとって・・・夢中になって遊べる場、いろいろな人に出会える場、

自分の好きなことをやる。興味のあることをやる。とことんやる。毎日できる。見守る大人がいる。面白いアーティストがいる。面白い大人がいる。

●地域にとって・・・世代間交流のできる場。情報交換の場。地域文化を発信する場。ユニバーサルなコミュニティスペースとして、障害や年齢を超えて交流できます。

●アーティストにとって・・・自らのアートの発表の場、アートを通じた社会貢献の場
地域とのつながりが薄いアーティストや若者が、自らの表現活動により、地域の人たちとつながり、またそれによって社会貢献ができます。

<事業の内容>

1. キッズアートハウス準備委員会の開催

キッズアートハウスの企画調整、サポートとアドバイスを行う。

委員：専門家と団体理事

2. アントレプレニウムワークショップの開催

子ども、親、地域の人たちが、自分たちの場を自分たちで企画し、マネジメントや管理の方法も考える。

3. 100日キッズアートハウスをみんなで作る

大人も子どもも一緒に原寸設計を行い、キッズアートハウスを手作りする。(10日間)

4. 100日キッズアートハウスの運営

参加者が企画した事業(ワークショップや講座、コンサート、展覧会等)を実施

5. 100日キッズアートハウスの検証

モデル事業として100日キッズアートハウスを実施してみて、子どもたちや大人への効果や運営方法等について検証、報告書の作成

空間づくり

スペース	必要空間・物	用途	作業予定						
			7/8~19	7/20(日)	7/21(月)	7/22(火)	7/23(水)	7/24(木)	
1.ふしぎの森スタジオ	・樹木(天井・壁) ・ピアノ ・小さな椅子 ・庭との結びつき(パラソル) ・鏡	・歌、ダンス練習 ・小さなコンサート ・自由に遊ぶ	<アントレ1>	7/8 下見	搬入	搬入		10~12 ネットワーク分科会	
			場所確認	7/12スライディングドア	・ピアノ				
2.お菓子の家	・中に入れるお菓子の家 ・小さなテーブル、椅子	・こどもの隠れ家 ・おまごご ・ごっこ遊び	仮設置	骨組み設置	・ダンボール				
			どんな風を使うか?	7/15.16.17骨組み設置					
3.絵本カフェ	・カウンター ・調理できる台 ・テーブル ・絵本が読めるスペース ・展示のできる壁面	・ワークショップ ・会議 ・絵本の読み聞かせ ・茶話会 ・小さなギャラリー	仮組み	7/15搬入	清掃	キッズ低学年			
			どんな風を使うか?		キッズ低学年	プランづくり			
4.創作準備室	・収納棚 ・ミシン ・BOX ・洋服掛け ・メイク台、鏡	・倉庫 ・作業準備 ・衣装づくり ・着替え ・メイクアップ	<アントレ2>		清掃	キッズ高学年			
			どんな風を使うか?		キッズ高学年	プランづくり			
5.コントロールルーム(事務所)	・机、椅子 ・パソコン ・電話 ・プリンター ・棚	・事務 ・管理 ・小会議	気持ちよい机		搬入・絵本				
			座りたい場所						
6.その他	・看板 ・玄関ドア		<アントレ3>						
			何を置くか?						
			<アントレ4>	7/12 NTT工事の下見	13~14 NTT下見				
			管理体制						
				12エイブルアート太田	13~保護者会			夜、松原(あおむしくんの会)会場下見	
				16風工藤					
				17太田、ホシノ					

< 2 > 準備作業 7月12日(月) ~ 19日(土)

7月12日(土)

部屋を仕切っていたスライディングウォールをはずす。真ん中に大きな柱があるが、ホールと部屋2つが一体となって、広い空間が出現。



7月15日(火) ~ 17日(木)

中埜先生、中村工務店の中村さんが、ホールのアーチを現場で原寸設計、制作。



7月19日(土)

翌日より始まる子供たちが参加する作業のための準備。天井に塩ビ管を張る。アーチ取付け。



お菓子の家設置

※ お菓子の家は2008年3月のKids' Alive!で造り、その後も保管しておいたもの。しかし、なかのZEROホールのロビーに合わせてつくったため、天井の低い保育園には三角屋根を切らなければならなかった。

7月20日(日)

午前中、大人による準備作業。午後、子供たちが集まり、絵本のへや(「絵本カフェ」になる予定の部屋)で、中埜先生指導によるワークショップ「居心地のいい場所をつくろう」



＜3＞空間づくりワークショップ・・・7月21日（月）～8月2日（土）

7月21日（月）

ダンボールによる中心の木の制作。
お菓子の家仕上げ作業。中学生が力を発揮する。力仕事や高いところも頑張る。
入口に受付を兼ねた事務カウンターが必要になり、ダンボールで作る。
造形作家加藤治男氏（体験芸術研究所）と息子さんと、ダンボール迷路「あなあなラビリンス」を半日で完成させる。



↑中央にある大きな柱を木にみ立てて、幹や枝をつくっていく・・・



↑あなあなラビリンス

7月22日（火）

木の幹にダンボールの切れ端を貼り、木らしくしていく作業は小さい子も参加してできる。N 姉妹、プランターに花を植える。
絵本のへやの本棚を作る。
どんな本をどういう風に置きたいか、によって本箱の形が変わってくる。



7月25日（金）

ふしぎの森スタジオの大きな木の仕上げ。
絵本のへや、カウンターづくり。



↑絵本のへや カウンター

7月26日(土)

お菓子の家の補修作業。看板の文字を切り抜く。名田さん(漆喰アーティスト)は看板の下地塗り。高校生になったT君も手伝ってくれる。Mパパ、車でゴミを持ち帰ってくれる。

7月27日(日)

午前中、木の幹と絵本カフェの机の脚づくり。
午後、名田さんの指導で漆喰の看板づくり。
入江さんが文字の色や木の塗り方をアドバイスしてくれる。5時すぎ、なんとか完成!



漆喰に色粉を混ぜる。乾くと色は淡くなる。

漆喰を素手で触るとかぶれるので
ビニール手袋をして作業する。
ひんやりした土の感触が気持ち
よい。



7月28日（月）

絵本のへや、テーブル作り作業。
ふしぎの森スタジオの木につける葉をたくさん切り抜き準備。



7月29日（火）～30日（水）

絵本のへや、テーブル作り作業。

8月1日（金）

子どもたちが、カウンターの下の花を折り紙などを切り抜いて作り貼る。空想の花々・・・部屋の中にお花畑が出現。



8月2日（土）

Aちゃん親子で受付カウンターの補強や花の飾り。葉の作業、机の色塗り。イベントカラーを大量に使用。



木の幹にもペイント。
Y君は、友だちの名前を白いペンキを使ってふしぎな文字で書き続けた。



＜4＞オープニング・・・・・・・・・・・・・・・・・・8月3日（日）

午後1時。漆喰で作った大きな看板を掲げるセレモニー。

お父さんたちも力仕事の手伝いで参加。



1時半から、みんなで持ち寄ったお菓子で、オープニングのお祝いのお菓子パーティー。

早稲田の学生さん6人も参加。



<5>仕上げ 8月13日(水) ~ 9月6日(土)

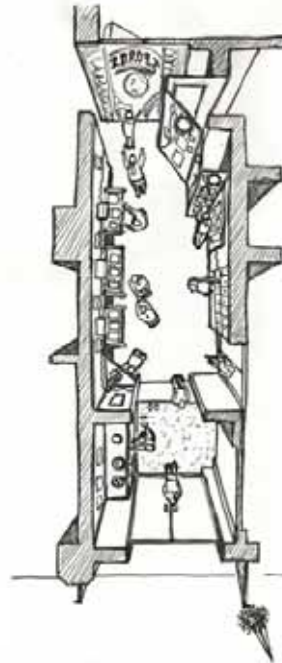
8月13日(水)

ふしぎの森スタジオに鏡をとりつける。が、かなり歪んで見える。材質の問題か？
外のフェンスに小型の看板を二カ所とりつける。



8月14日(木)

玄関ホールの活用を考え、情報コーナーを設置。
キッズアートハウスを利用している団体や個人、
今まで関わりのある人たちの様々な情報を展示する。



情報コーナーのイメージパース →

8月15日(金)

木にはぶどうがなり、葉っぱも増えている。
りんごやみかんも同じ木になっているところが楽しい。
自宅でぶどうをつくる作業をしてくれる人もいて、豊かな実りの木となる。



8月19日(火)

グランドピアノが入る。このピアノは
カワイ楽器の協力で期間中借用したものの。

8月23日（土）

ピアノの周りを屏風のようにダンボールで囲む。
落ち着いた演奏空間になる。

ピアノが入ったことで、ふしぎの森スタジオの
雰囲気が変わった。



8月30日（土）

鏡の歪みが気になるので張り直し。

中埜先生、鏡の位置を確認し、下地のベニヤ板
を買いに行く。その後下地取付作業。

向かい側の戸棚を隠す布をつける。この布も以
前子どもたちが染めて作ったもの。

窓側に新しい葉っぱが増える。



9月1日（日）

午後、鏡を貼る。両面テープで
アクリルミラーを貼るが、歪みあり。
これでだいたいの内装は出来た。



9月3日（火）

鏡を貼った両面テープがはがれて、
鏡が浮いて丸まっている。

9月5日（木）

仕方ないので、いったん鏡をはがす。

9月6日（金）

鏡をもう一度、今度は接着剤を全面につけて貼
る。室内がなんとなく暗いということで、配線
や電気関係の得意なSさんが蛍光灯を8本とり
つけてくれた。元校長先生のI先生も作業をず
っと手伝ってくださった。

なんとなく暗かったホールがとても明るくなる。
切り絵名人Kさんによるトンボや花なども天井
から下がり、雰囲気がまたぐっとよくなる。



***こうして、キッズアートハウスは、ひとまず完成！**



▲ ふしぎの森スタジオ



▲ お菓子の家



▲ 絵本のへや



▲ あなあなラビリンス



▲ 情報コーナー（玄関）

第3章

つかう

Welcome! ~ようこそ!



キッズアートハウスは、みんなで作る場所です。
こどもたちがアートや人と出会う場所、夢を形にできる場所です。
つくったり、遊んだり、学んだり、自分がやりたいことをやりましょう！
こどもだけでなく、おとなもいっしょに楽しみましょう！
(旧東中野保育園・期間限定で11/3(日)迄)

絵本のへや



ふしぎの森スタジオ



歌・ダンス・演劇、
絵画や造形活動
のアトリエにも
(ピアノ・観あり)

学習会、会議、絵本の読み
聞かせ・・・
もちろん一人で静かに絵本
の世界で遊ぶこともOK.



キッズアートハウスでは、様々な団体が
「こども」「アート」に関わる活動、子育て支援活動を展開します！

主催：特定非営利活動法人 ZERO キッズ
後援：中野区
独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金助成事業



連絡先
キッズアートハウス
T&F：3360-9875
メール info@c-c-cnet.org

★ いろいろなワークショップもあります。裏を見てね！
場所は中野区東中野 1-35-5 東中野図書館と同じ建物の1階部分です

< 1 > キッズアートハウスの使い方の原則・・・・・・・・・・

●開館時間：

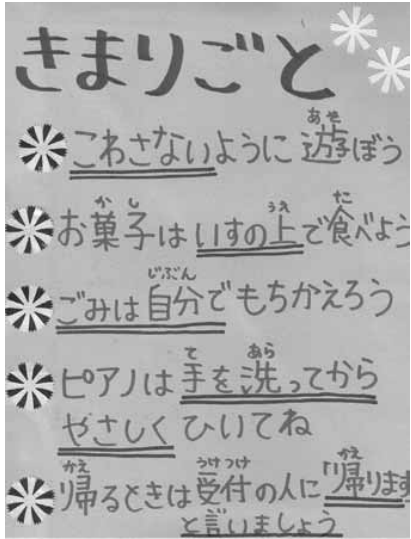
原則として午前 10 時から午後 6 時まで。金、土は中高生対応で夜 9 時まで。
毎週木曜日は休館日とする。(上の図書館が休館日のため、管理上入らないでほしいとの区からの要請のため)

●一般（個人；こどもや、親子で訪れた人たち）の利用： 原則無料開放

●イベントやワークショップについて：

- * 参加費の有無に関わらず、地域にもオープンであること。
- * 利用にあたっての優先順位は、
 - 1) こども、親子対象の活動
 - 2) 子育て中の親対象の活動
 - 3) それ以外の人対象の活動 とする。
- * 基本的に、企画者が広報や運営に責任を持つ。
- * 会場使用料や謝金等の経費は、参加費の徴収等によりまかなう。
- * キッズアートハウスのちらしにもイベント告知は掲載する。
- * ガスの使用と庭の使用は、中野区との契約上禁止。
- * 会場の清掃は、使用者も行う。ゴミは原則持ち帰り。
- * 大きな音の出る催しについては、上階の図書館に配慮すること。
- * キッズアートハウスとしての実験的試みによるワークショップやイベント、こどもたちにぜひ体験させたいワークショップやイベントについては、子育て支援基金の予算から謝金等を出す。

高校生ボランティアがこどもたちにわかるようにと、考えて書きました

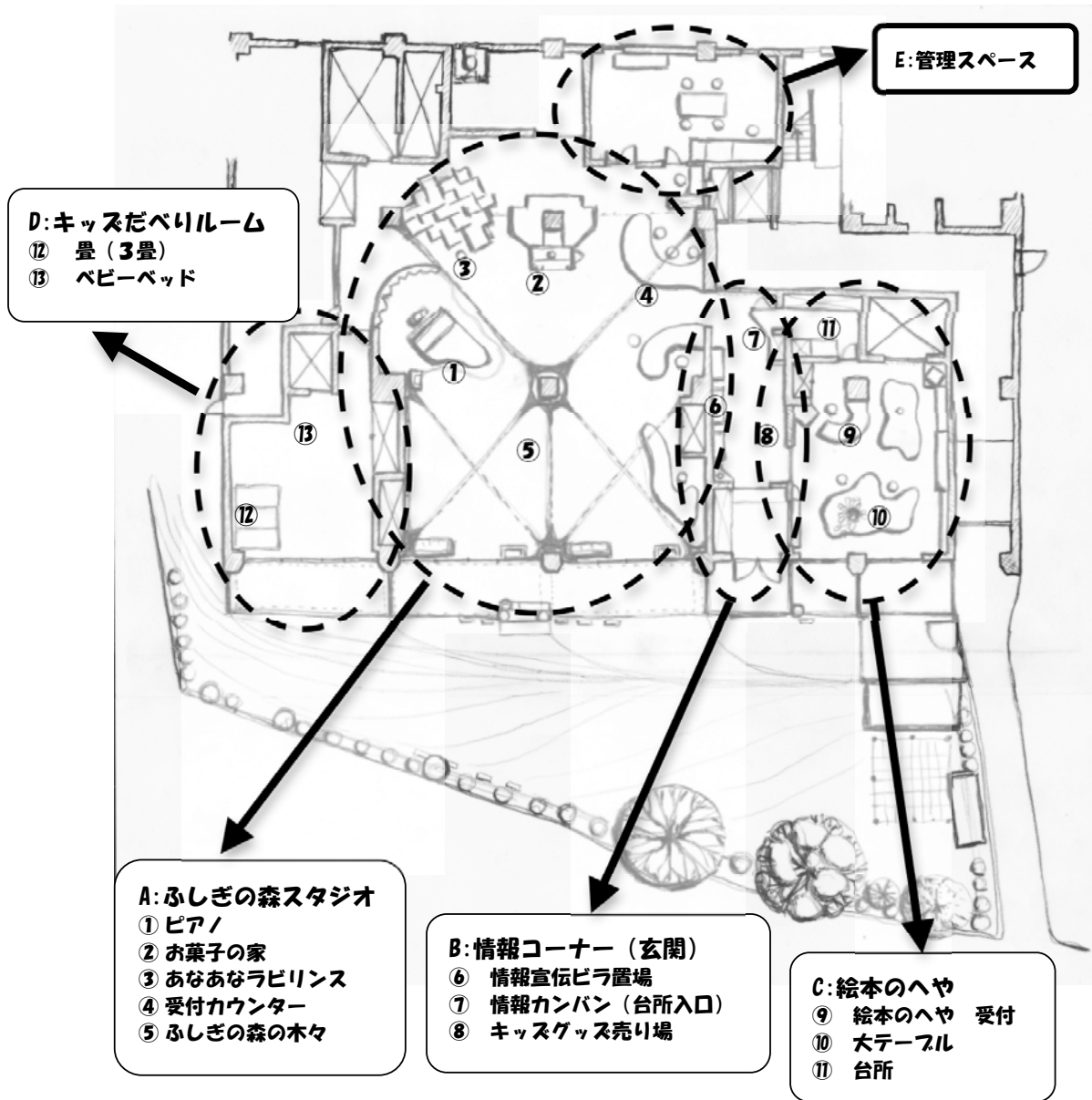


●団体の利用：(色々な団体から利用の申し出があったため、原則を決める。)

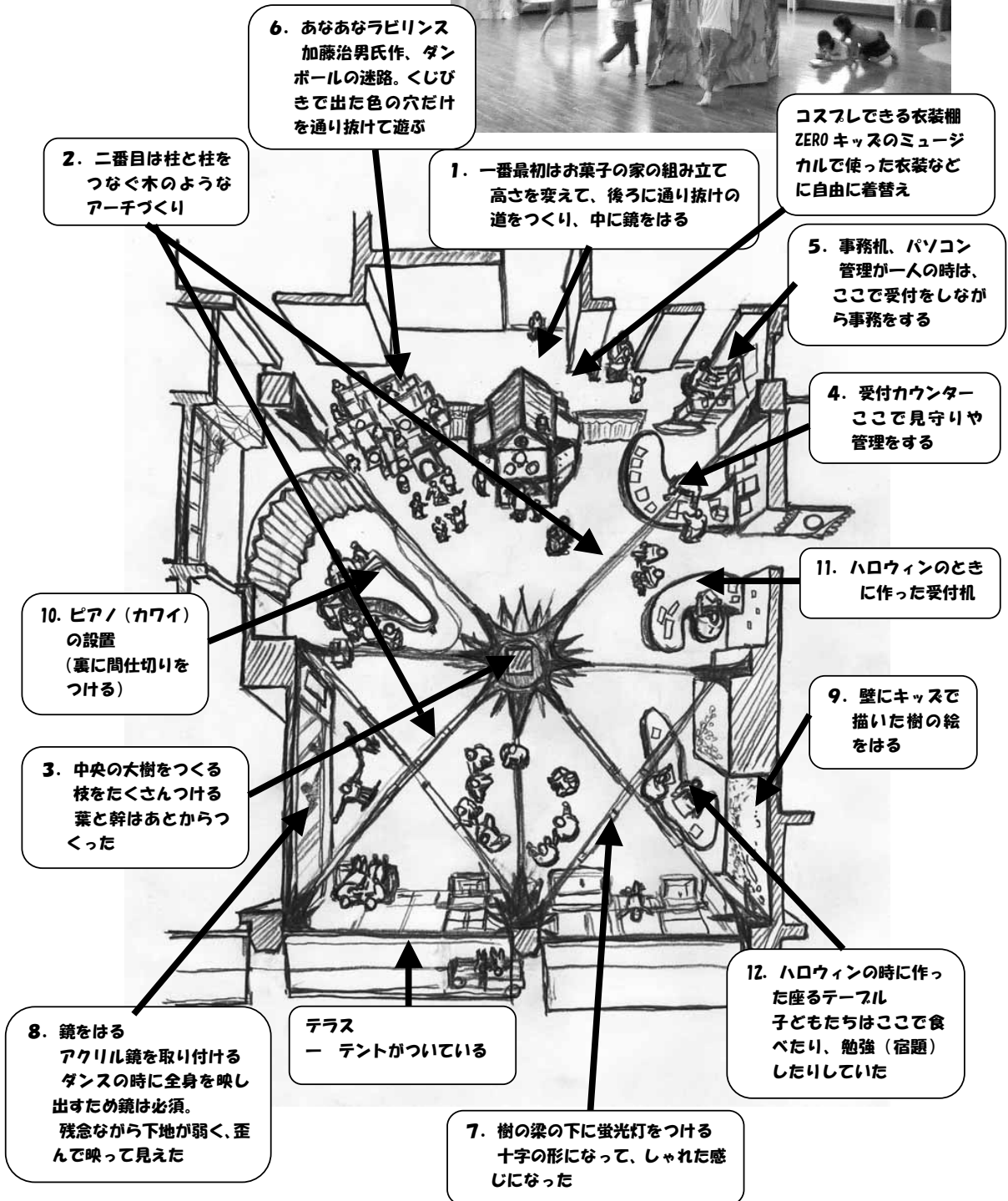
使用料・・・・・・・・・・・・・・・・

- ・ふしぎの森スタジオ（ホール）： 1 時間 1,000 円
- ・絵本のへや： 1 時間 500 円
- ・キッズだべりルーム（畳、ベビーベッドがあるので託児室としても使える）
： 1 時間 500 円

< 2 > それぞれの場所はどう使われたか



(1) 「ふしぎの森スタジオ」



★ふしぎの森スタジオ — 少しずつ使いながら作る

ふしぎの森スタジオは、キッズアートハウスの中心であり、最も大きく、そしてすべての出発点としてのスペースでした。

中央の柱を包むように作られた大きな樹とまわりの小さな樹、そして庭にある本物の樹が一体となって、パノラミックな森の景色をつくりだしました。

ここからは庭に出ることもできます。庭には大きな桜の樹が一本あって、初夏にはさくらんぼの実が枝いっぱいになります。このスペースは庭に続くテラスと屋根テントで形成された、一番素敵なスペースのひとつでした。

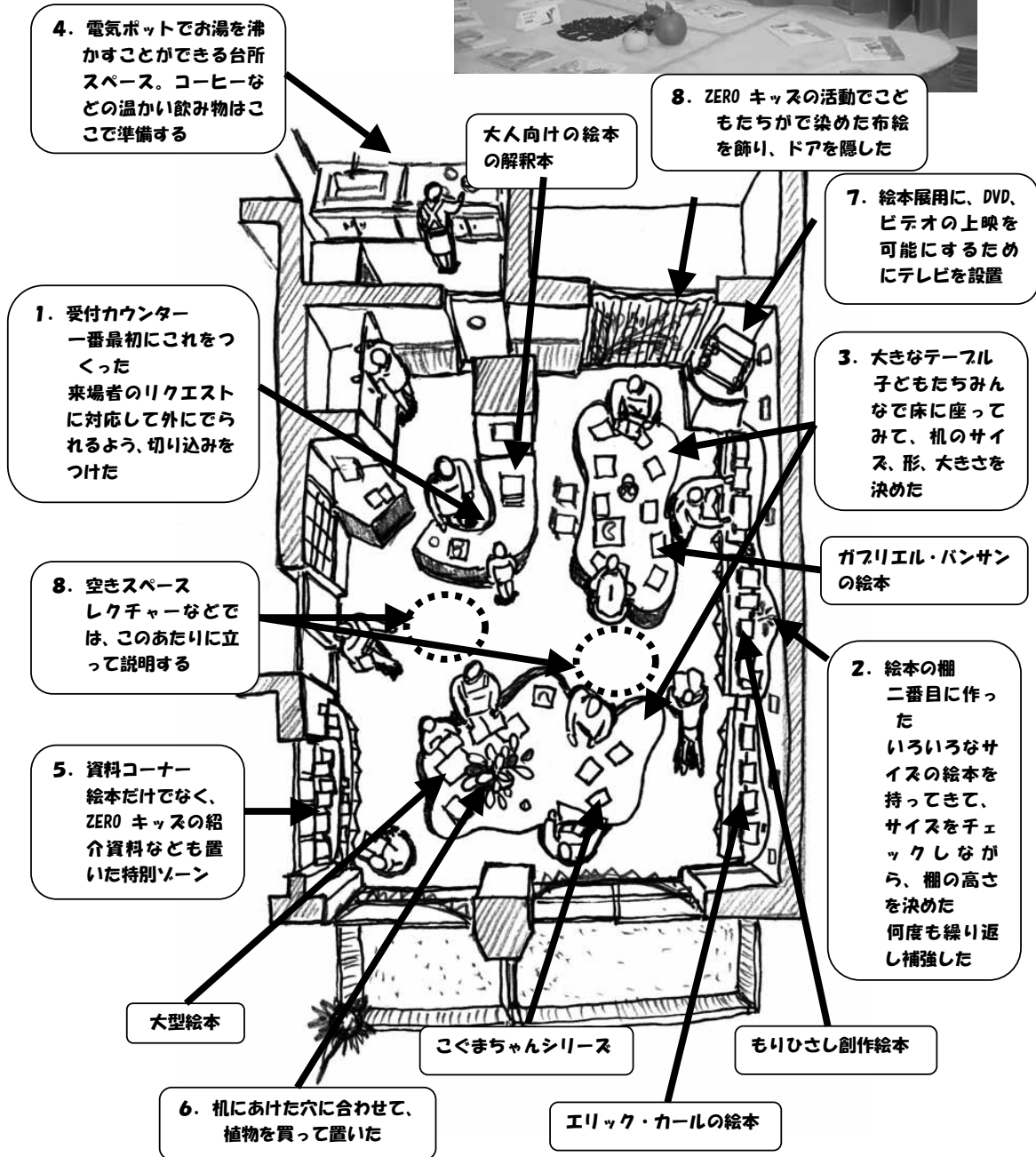
●使われ方と機能

- ・週末（日曜）はこどもたちの表現ワークショップを行うスタジオとして、平日は子育て中のお母さんたちの地域の団体や障害者の団体等が使用しました。
- ・葉っぱや果実、壁などを段ボールなどを使って、みんなで使いながら少しずつ作ったり色を塗ったりしていきました。
- ・中央のスペースは、樹のまわりを大きく空けて、様々なレッスンやトレーニングのワークショップなどに使えるようにしました。体操、マタニティエクササイズ、ベリーダンス、コンテンポラリーダンス、エアロビクス・・・等。
- ・コンサートを気軽に親子でたのしめました。クラシック、ゴスペル、ピアノ、ギター、テルミン、木管・・・等。
- ・ハロウィンやキッズアートハウスまつりなどの、大きなパーティ会場にもなりました。
- ・柱の間を対角線状につないだアーチ状の梁に沿って蛍光灯を設置しました。これによって内部の雰囲気がぐっと明るくなりました。
- ・大きな鏡は、ダンスの練習をする人たちの要望で設置し、役立ちました。
- ・お菓子の家の後ろに、衣装棚を作りました。ZERO キッズのミュージカルで使った衣装（魔女や女神さま）を置いて、いつでも着替えて楽しめるようにしたところ、こどもだけでなく大人にも大人気のコーナーになりました。

以上のような使われ方と機能は、必要に応じてその都度つくりだし、うみだしてきたものなのです。その意味では、ディズニーランドのように「いつまでも完成しない」スペースだったとも言えます。逆にそのことによって、みんなでいつでもつくることのできたのです。この、「少しずつ使いながら作る」ことが、このスペースが活発に活用され、成功を収めることのできた一番の要因といえるのではないのでしょうか。



(II) 「絵本のへや」



★絵本のへや — 小さなワークショップで作り、小さなワークショップに使う

絵本のへやは、子どもたちがみんなで座ってテーブルをつくるワークショップから始まりました。そしてその後は、いろいろな小グループのワークショップや会議が開かれました。

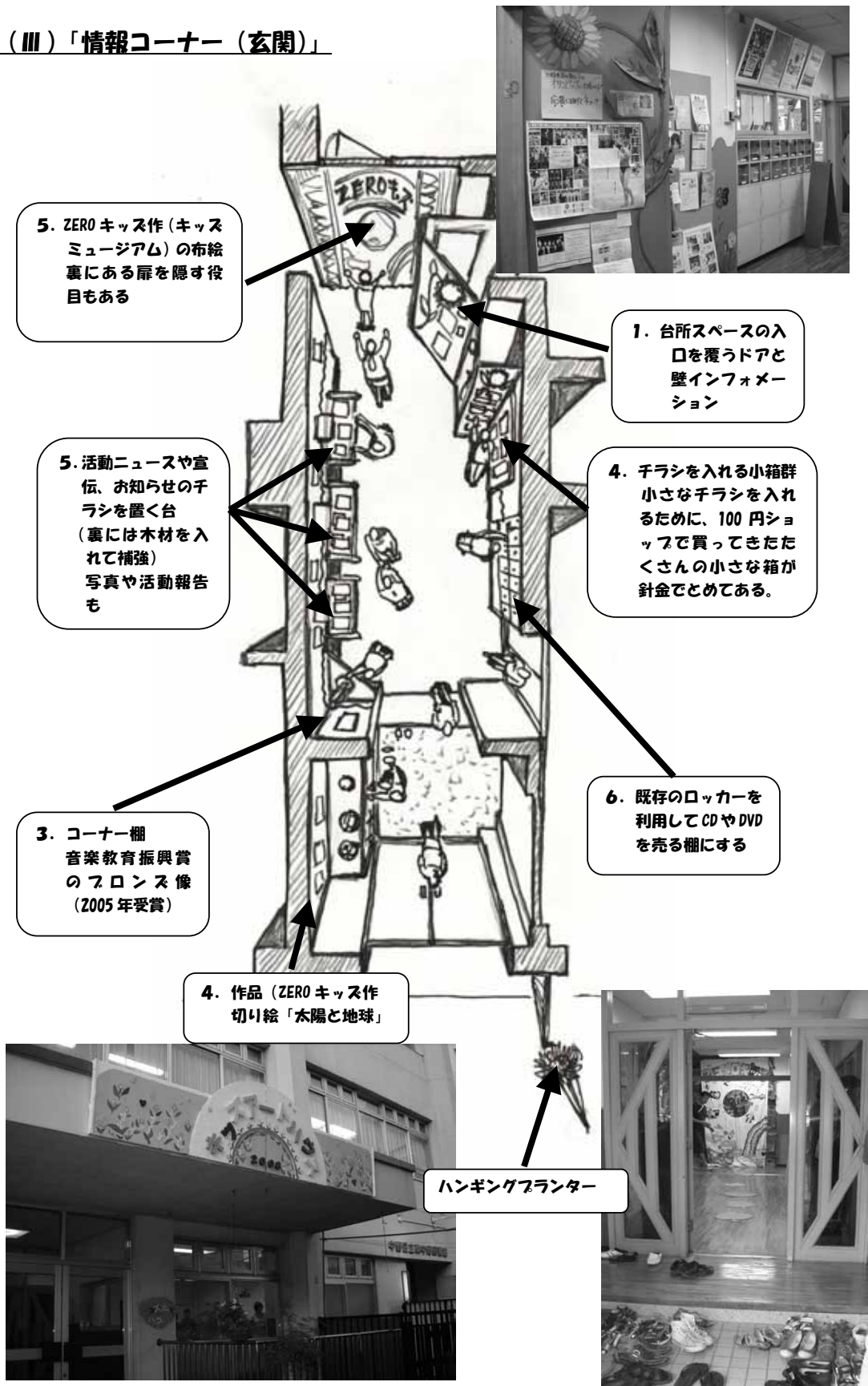
●使われ方と機能

- ・ いろいろな絵本が置いてあります。後半は地域在住の絵本作家もりひさし氏の作品を設置
- ・ ZERO キッズの活動記録のための棚もあります。
- ・ 大人用の絵本の解説本もあります。
- ・ 関係者のCDや楽譜、本等のグッズ売り場もあります。
- ・ 大人たちがコーヒーを飲みながらゆったりする場所でもあります。
- ・ 小さな会議、ワークショップには最適でした。
- ・ 子育て講演会や、地域の学習会が堅苦しくない雰囲気できやかにできました。
- ・ こどもたちは大きなテーブルの上で、粘土のワークショップをしたり、お絵かきワークショップをしたりしました。
- ・ 庭でつかまえたバッタをここで飼いました。つかまえたこどもたちは、上の図書館で飼い方を調べ、当番でバッタの世話をしていました。
- ・ 絵本作家・もりひさし先生の絵本講座もここでひらかれました。
- ・ もりひさし絵本展を10/12～11/1まで開催しました。絵本展に訪れた人はのべ258人、もりひさし先生も一日置きに会場を訪れては、来展者に絵本についての話を丁寧にしてくださいました。
- ・ 昼食時には、図書館に来た親子連れの食事スペースとしても活用されました。
- ・ こどもよりも大人が多く利用したスペースです。
- ・ 大人があらためて絵本を楽しんでいました。

このような小さなスペースは、小さな集まりやワークショップには最適なのです。



(Ⅲ)「情報コーナー(玄関)」



★情報コーナー — ネットワークづくりは情報交換のスペースの確保から

この場所は、玄関から入ってすぐのところ、廊下になっていました。外のテラスから「ふしぎの森スタジオ」に直接入っていく人も少なくなかったのですが、玄関で靴を脱いで入ってくる人は、ここを通過して「ふしぎの森スタジオ」と「絵本のへや」に入っていました。ここは単なる廊下ではありません。玄関から入ってきた場合にはとても大切なスペースです。

キッズアートハウスがオープンしてまもなく、ここを「情報交換スペース」にしようという提案がありました。

●使われ方と機能

- ・基本的には情報交換の「チラシ」（展示会の案内等）などが置いてあるスペースです。
- ・ZERO キッズの今までの活動を紹介するスペースでもありました。
- ・ここに最新のキッズアートハウスのニュースを掲示しました。

このスペースを通じて、いろいろな人が情報を置いていったり、持っていったりしました。このスペースがあったからこそ、新しい出会いやネットワークのつながりがうまれたのです。このように、拠点としてのスペースがあれば、情報交換を通していろいろな NPO 団体と地域との交流が生まれ、自然にネットワークが形成されていくのです。



★キッズだべりルーム — 託児スペースとして、くつろぎのスペースとして活用

この部屋は保育園時代は1歳児室だったので、床に畳が三畳分敷いてありました。特に何も造作をしなかったのですが、この畳に寝っ転がって友だちとおしゃべりをしたり、漫画を読んだり、こどもたちだけのくつろぎスペースとして大いに活用されました。また、平日は託児ルームとして、お母さんたちの活動の間、小さなこどもたちが保育さんとお絵かきをしたり遊んだりして過ごしました。ベビーベッド(保育園の置きみやげ)もあったので、おむつ替えにも重宝しました。授乳の場としても活用されました。

赤ちゃんを持つお母さんが写真展をしたいという希望があり、写真を壁面に展示しました。

●使われ方と機能

- ・ 託児スペースとして
- ・ 授乳スペース、おむつ替えのスペースとして
- ・ 小学生、中学生の何もしない時のくつろぎの場として
- ・ 宿題をしたり、勉強をする、漫画を読む等、一人で何かするスペースとして
- ・ 仲のいい友だちとおしゃべりをするスペースとして
- ・ 寝転がって休む、昼寝をするスペースとして
- ・ 写真展
- ・ 小さなおはなし会



↑ NPO 元気な図書館スタッフによるおはなし会

壁に飾った写真は →
キッズアートハウスを利用する
ママの作品

宿題をする中学生 →
漫画をよみふける小学生
寝転がれるのがいいらしい



↑ ママが活動している間の託児風景



★事務室（コントロールルーム）

北側の中央に、保育園時代の事務室と保健室がありました。二つの部屋の間仕切りを取り払い、部屋の中央にテーブルを配置し10人程度の会議ができるスペースを作りました。保育園時代のスチール机やスチール棚、黒板、かなり沈み込むソファなどの遺物が多く残されており、あまり快適ではありませんでしたが処分にも困るのでそのまま使いました。

この部屋からは全体を見通すことができない、玄関からの来客に気づきにくい、という不便があり、子どもたちの安全管理に目が届かないので、日常的な事務は事務室の外に作った机、またはカウンターで行いました。

●使われ方と機能

- ・ 事務作業
- ・ 電話対応
- ・ 少人数の内部の会議、打合せ
- ・ 接客、講師接待
- ・ 休憩（気分の悪くなった人）
- ・ スタッフの食事、休憩
- ・ 画材、創作材料の保管
- ・



★その他

トイレの隣に倉庫とシャワー室がありました。倉庫はダンボールや木材などの保管に使いました。シャワー室には洗濯機置き場があったので、洗濯機を置き、ぞうきんやカーテンの洗濯をしました。絵本のへやの奥の元浴室や、キッズルーム奥の赤ちゃん用トイレなど、デッドスペースも多くあったので、収納にはとても便利でした。

今回、給食室は使わないという条件での借用でしたが、使用することができれば、食育のグループの学習会や、配食グループの利用など、「食」を通してもっと活動や人の広がりができたと思います。



< 3 > 主なイベント一覧

9/2 (火) 10:30~11:45 ベリーダンス初中級クラス (こぶたラボ)
9, 16, 30 毎週火曜日(10/7,14,21,28)

こぶたラボは子育て中の女性のための部活動&スキルアップ講座



9/7 (日) 10:00~12:00 ボイスレッスン
13:00 ~15:00 ダンスワークショップ (ZERO キッズ)
毎週日曜日 (小学生以上)

9/7 (日) ①13:30 ~ ②15:30~ 粘土でつくるかわいいお菓子
アイスクリームのストラップとクリームたっぷりのワッフルを作るよ!

9/10 (水) 10:30~15:00 ドロップイン (ドロップインほっとほっと)
子育て中のママたちの子育て広場。誰でもふらっとどうぞ!

9/12 (金) 13:30~ 子育て応援団 "ママ修行は魔女修行?、(ルシエール)
三好良子先生のおもしろためになる学習会

9/19、26 (金) 16:00~17:00 障害児(者)のための音楽教室 (池田邦太郎)

9/20 (土) 9:30~16:00 演劇ワークショップ (ZERO キッズ)
大多和勇氏を講師に、新しいミュージカルをつくるために即興劇づくりを中心としたワークショップ

9/21 (日) 10:00~12:00 表現とコミュニケーション「基本のき」(ZERO キッズ)
小5以上の思春期世代を対象とした三好良子先生によるワークショップ

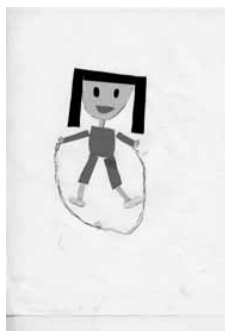
9/21 (日) 13:30~17:00 キッズアートハウスまつり!
縁日とワークショップ、ミニコンサートなど。フリマもあるよ!

9/22, 29 (月) 10:30~ マタニティ&産後エクササイズ (こぶたラボ)
毎週月曜日(10/6,20,27)

9/26 (金) 19:00 ~21:00 フォーラム「アートでまちを元気に!」コミュニティ
とアートを考える会


パネリスト: 熊倉純子 (東京芸術大学音楽環境創造科准教授) 柄田明美 (ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室研究員) 西垣耕造 (東京演劇集団風劇団員)、進行: 太田好泰 (エイブル・アート・ジャパン)

9/27 (土) 14:00~ アトリエ・ポレポレ (エイブル・アート・ジャパン)




10/1 (水) 14:00~15:30 アントレわくわくワークショップ
こどもたち、集まれ〜! キッズアートハウスでやりたいことをみんなで考えて、10月中に実行するよ!


10/4 (土) 午前、5,19,26 (日) 午前午後 ZERO キッズの表現ワークショップ
いろいろな表現を体験して、来年5月のミュージカルに向かうよ!

10/4,11,25,11/1 (土) 13:30~ 青空いんぶろ 
障害のある人ない人多くの人とのコラボレーションで創る新しい舞台芸術 (サポートセンターくりっく)

10/4 (土) 14:00~ ちっちのお絵かき教室
かわいいちっち先生と一緒にいろいろな形を写して楽しくコラージュをつくるよ!


10/6, 20,27 (月) 10:30~ マタニティ&産後エクササイズ (こぶたらボ) 
毎週月曜日(10/6,20,27)

10/7,14,21,28 (火) 10:30~ ベリーダンス初中級クラス (こぶたらボ)
こぶたらボは子育て中の女性のための部活動&スキルアップ講座

10/10、24 (金) 午後 障害児 (者) のための音楽教室 (池田邦太郎) 

10/10 (金) 10:00~15:00 こぶたカフェ (こぶたらボ)
子育て中のママたちの自由交流スペース (出入り自由) 入場¥500 ハーブティなどお茶各種用意!

10/12 (日) 10:30~あおむしくんの会絵本づくり講座 (もりひさし絵本展同時開催)
「はらべこあおむし」の日本語訳他でおなじみのもりひさしさん (中野在住の児童文学者) をお迎えして

10/12 (日) 14:00~ 秋のコンサート (ピアノと歌) 
出演: 竹田有輝子 (ソプラノ)、鶴川勝也 (バリトン)、相原郁美 (ピアノ)

10/13 (日) 13:30~もりひさし先生講演会「絵本とファンタジー」(絵本展同時開催)
「はらべこあおむし」の日本語訳他でおなじみのもりひさしさん (中野在住の児童文学者) をお迎えして


10/15 (水) 13:30~ 子育て応援団「ママ修行は魔女修行?..」(ルシエール)
三好良子先生のオモシロためになる学習会

10/22 (水) 14:50~15:20 おはなしミュージックシアター「お菓子の船」
(ワンダーアストライア) 一緒に歌って踊ろうね! ミニコンサート付き 親子歓迎!

10/25 (土) 11:00~12:00 親子でリトミック (キッズハッピー隊)
就学前の親子対象。音楽にのって楽しく身体を動かしましょう!

10/27 (月) 10:00~ 学習会「地域の遊び場づくり〜キッズアートハウスからそ
うぞう力を!」小滝町会子どもと共に進む会・とちまるランド共催 講演: 佐々木 香

10/31 (金) 夕方~ ハロウィンパーティー (企画中) 
企画段階から参加したい魔女見習い (こどもでも大人でも) 募集中!

11/1(土) 10:30~ 三好良子先生子育て学習会 (こぶたらボ) 

11/2(日) 10:30~ 旧東中野保育園同窓会 

< 4 > 定期的に行われた主なイベント・・・・・・・・・・・・・・・・

マタニティ&産後エクササイズ・・・(毎週月曜日)

ベリーダンス初中級クラス・・・(毎週火曜日)

主催の**こぶたラボ**は、子育て中の女性のための部活動&スキルアップ講座を手掛けるグループ。ベリーダンスクラスでは、同時に生徒自主運営の託児も試みていました。

期間中はほかにも、こぶたカフェ、ゴスペルレッスン等のイベントの開催や、キッズアートハウスまつり、ハロウィンパーティーにも参加するなど、キッズアートハウスを最も頻繁に活用したグループのひとつでした。



ダンスのワークショップ・・・(隔週土曜日)

主催の**青空いんぶろ**は、土井唯起子氏を中心に 2005 年より活動を始めた、障害を持った人を対象にした体操やダンスの活動を定期的に行っているグループです。

今回の一連のワークショップは 2009 年 4 月 18 日、19 日の舞台公演“私のかたち”という作品に向けての参加者募集の一環として行われました。



明治安田生命社会貢献プログラム 「エイブルアート・オンステージ」参加事業

私のかたち

障害のある人ない人多くの人の
コラボレーションで創る新しい舞台芸術

2008.10 ▶ 2009.4
舞台を作るプロジェクト!
参加者を募集します。

『エイブルアート・オンステージ』とは??

障害のある人たちが演劇、ダンス、音楽などの舞台芸術分野で表現する機会を提供するとともに今まで出会うことなかった人同士が出会い、お互いの違いを超えてコラボレーションすること。そこから生まれてくる表現は作る人を見る人の考え方や価値観に照らさずともあらず。その積み重ねから、障害も社会も駆逐していくのではないだろうか。一人ひとり前向きで、異年齢がともに活動することの難業ではなく、誰がからかお互いの個性をぶつけ合い、新しい表現が生まれ舞台芸術も社会も変化する。

『エイブルアート・オンステージ』は舞台芸術と社会の未来に向かうプロジェクトです。

主催 青空いんぶろ
共催 エイブル・アート・ジャパン
協賛 明治安田生命保険相互会社
後援 中野区教育委員会
協力 社会福祉法人愛協会

< 5 > 9月の主なイベント.....

「粘土でつくるかわいいお菓子」・・・7日（日）

「絵本のへや」で、粘土を使ってアイスクリームのストラップや、クリームたっぷりのワッフルづくりに挑戦しました。



粘土でつくる
かわいいお菓子



9月7日（日）

①13:00～14:30 ②15:30～17:00
各回 15名（先着順）

場所：キッズアートハウス（旧東中野保育園）
材料費：500 えん
申込み：T&F 3360-9875
メール info@c-net.org

アイスクリームのストラップと
クリームたっぷりのワッフル
をつくるよ！

※好評につき、10月にも開催

「キッズアートハウスまつり！」・・・21日（日）

ZEROキッズ保護者の企画により開催。当日はかなりの雨にもかかわらず、開始直後からたくさんのお客さんが来場して賑わいました。



みんなで来てね！

キッズアートハウスまつり

フランクフルト

ヨーヨーつり

フリーマーケット

とんぼ玉づくり



かき氷 

スーパーボールすくい

わなげ

しやてき射的

ゲームは全部50円！

9月21日(日) 13:30～17:00

場所：キッズアートハウス

中野区東中野一丁目35番5号
(旧東中野保育園、東中野図書館1F)

♪ミニステージもあひます！
ごぶた可保 ゴスペルコンサート 13:40～
ZEROキッズコーナー 15:00～
うずまきトリオコンサート 16:30～

切り取って持ってきてね

ゲーム1回無料券

ヨーヨーつり
スーパーボールすくい
輪投げ
射的
玉入れ のうちどれでも1回できます

ふしぎな楽器
テレミン登場！

主催：ZEROキッズ保護者
お問い合わせ：キッズアートハウス
03-3360-9875

●絵本カフェでは・・・

- ・粘土のとんぼ玉づくりのワークショップ ・e-clubによる「自分でつくる味噌汁」

●鏡の前のステージスペースでは・・・

- ・ママゴスペルチーム Sister☆sister ・ZEROキッズの歌とダンス
- ・「うずまきトリ」ユニットのピアノ&ギター&テルミンと歌のコンサート



- この日の来場者は 200 人以上！お菓子もかき氷もドリンクも、準備していた在庫が切れてしまい、急遽買出しに走りました。

●参加者の感想・・・(アンケートより抜粋)

- ・子どもはよろこんでいた。とくにゲーム。
- ・もっといろいろステージみてみたい。
- ・演目の時間がうまく考えられていて、子どもも飽きなかった。
- ・ゲームが幼児でも楽しめてよかった。
- ・とんぼ玉がつくれてうれしかった。
- ・キッズのダンスがかっこよかった。
- ・楽しめたが、とても混んでいて大変だった。
- ・天気が良くて庭が使えるればもっとよかった。
- ・あたたかい雰囲気を楽しめた。
- ・こんなイベントが年に何回かあったらいいのに。

●主催した ZERO キッズ保護者の感想

- ・休憩室、ワークショップ室、イベントスペースに分けられたので、大人数が来てもゆったりできる場所が確保されよかったです。空間自体が魅力的につくられているので、小さい子どもたちも大人も楽しそうでした。雨でも中だけで「祭り」ができるスペースは貴重です。トイレがもう少しあり、男女分かれているといいのですが、

●参加者数：210名（男54・女156）

「アートでまちを元気に！」・・・26日（金）

「中野コミュニティとアートを考える会」主催のフォーラム。
中野区で2005年に設置された「芸術文化振興に関する懇談会」の当時の委員の方々をパネリストとして迎え、懇談会における議論の経緯や提案の内容を伺い、それをヒントに今後のコミュニティの再生とアートのかかわり方について議論しました。

●パネリスト

- ・熊倉純子
(東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科准教授)
- ・柄田明美
(ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室研究員)
- ・西垣耕造
(東京演劇集団「風」劇団員)

●進行

- ・太田好泰 (エイブル・アート・ジャパン事務局長)



アートで・まちを・元気に!

アートと地域のつながりについて、みんなで集まって考えてみませんか?

9月26日（金）
午後7時～9時（受付は6:30から）
会場：キッズアートハウス
（元 東中野体育館）
東京都中野区中野1-15-5
TEL:03-3360-9875

第1部 フォーラム

■パネリスト：
熊倉純子 東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科准教授
柄田明美 ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室研究員
西垣耕造 東京演劇集団「風」劇団員

■進行：
太田好泰 エイブル・アート・ジャパン事務局長

第2部 コミュニティ・アート・カフェ
（自由参加・自由討論）

■参加費：500円
カフェでは飲み物を提供いたします（有料）

□申し込み方法：事前のお申し込みをお願いします。
以下の項目を明記して、FAXまたはE-mailでお申し込みください。

1.お名前(フリガナ) 2.ご住所 3.ご連絡先電話番号、メールアドレス
4.お申し込みの趣旨(参加の目的や関心のある分野)を明記してください。

□申し込み先(お申し込み先) キッズアートハウス内
フォーラム事務局 TEL:03-3360-9875
e-mail:info@k-a-h.org

■主催：中野コミュニティとアートを考える会

アートで・まちを・元気に!

中野区では2005年度に、今後の文化芸術振興の方向性を議論するための場として「芸術文化振興に関する懇談会」を開催しました。6人の委員が議論を繰り返して、生活の質を高め、全国に中野らしさを発信するためのプロジェクトの提案を行いました。委員会の経緯と提案内容は2006年1月に「人とまちを文化が結ぶ中野」づくりをめざして「文化芸術振興に関する懇談会報告書」としてまとめられています。

その後、この懇談会の提案を活かしてアートでまちを元気にしていこうと、様々な人たちが動き始めています。そこで、当時の委員の方々をお招きし、議論の経緯や提案の内容を改めてお聞きしたり、それをヒントに議論をする場を創りたいと考えました。

今夏、NPO法人ZEROキッズが、子どもとアートが地域をつなげる可能性を探しようとして、元東中野体育館を仮会場として、「100日キッズアートハウス」という場をつくりました。この場ができたことがきっかけになり、中野を拠点に活動する、アートや子育てのNPOや団体が増えて、コミュニティの再生や、子どもや高齢者、障害者のある人たちのアート活動に目を向けることで見えてくる、新しい社会のありかたについての議論が起ころうとしています。

今回のフォーラムで、豊かなコミュニティを再生したり、高齢・障害者など様々な人たちが、アートを通じてつながりを創るための方法や道筋について、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。ご関心のある方のご参加をお待ちしています。

■コミュニティとアートを考える会
メンバー（50名前）

高田邦太郎 鎌倉市(若)親子のための音楽教室主宰
エイブル・アート・ジャパン
東玉川町会
東玉川町会
なかの生活学習サポートの会
公益文化研究所
松ヶ谷 幸
NPO法人ZEROキッズ
パレット・タイム・クリエイション・マリア
高橋マユイ
中野 博
コムニティ・プランナー
中村信子
東京演劇集団「風」
パレット・タイム・クリエイション・マリア
山口 真樹
都市計画プランナー/中野区民力振興局
山本麻紗子
パレット・マリア

参加者数：40名（男10・女30）

フォーラムの第二部は「コミュニティアートカフェ」として、参加者も講師も一緒に交流しながらの歓談。色々な人と知り合えて有意義だったとの声が多く聞かれました。

< 6 > 10月の主なイベント・・・・・・・・・・・・・・・・

「アントレ・わくわくワークショップ」・・・1日（水）

キッズアートハウスでいったいどんなことができるか？どんなことがしたいか？ — こんな問いかけをもとに、子どもたちから希望を聞き出して、今後のキッズアートハウスのイベント企画や活動に生かしていくために、中埜博氏の指導のもと、ワークショップを行いました。



アントレ・わくわく
ワークショップ



10月1日（水・都民の日）

午後2時～3時半くらい
 場所：キッズアートハウス（旧東中野保育園）
 参加無料
 対象：小学生・中学生・大人
 講師：猫バス先生（中埜 博先生）
 申込み：キッズアートハウス
 T&F 3360-9875 メール info@c-c-net.org

キッズアートハウスでやりたいことを考えて、みんなで実現しよう！
 たとえば、お菓子の家の増築、ハロウィンパーティー・・・

「ちっち先生と一緒に絵かきワークショップ」・・・4日（土）

「ちっち先生」こと首藤智恵先生の指導により、いろいろな模様を写してコラージュを作りました。



ちっち先生と一緒に
お絵かきワークショップ



10月4日（土）

午後2時～3時半くらい
 場所：キッズアートハウス（旧東中野保育園）
 参加費：100円
 対象：幼児から小学生中学生も（お母さんどうぞ）
 講師：ちっち先生（首藤智恵先生）
 申込み：キッズアートハウス
 T&F 3360-9875
 メール info@c-c-net.org

かわいいちっち先生と一緒にいろいろな模様を写してコラージュをつくるよ！

「こぶたカフェ」・・・10日（金）

こぶたラボ主催の「こぶたカフェ」をキッズアートハウスで開催しました。給食当番のママが作るおいしいランチ（¥800）はヘルシーでおいしいパンとスープ。タロットやメイク、マッサージのコーナー、フラダンスチームの発表もありました。



「もりひさし絵本展」・・・(10月12日～11月1日)

- ・「はらぺこあおむし」の日本語訳や「こぐまちゃん絵本」でおなじみの中野区在住の児童文学者もりひさし先生の創作、翻訳作品を「絵本のへや」に展示。
- ・これに伴い、12日(日)には、もり先生による、あおむしくんの会絵本づくり講座が、13日(月)にはもりひさし先生講演会「絵本とファンタジー」が、開催されました。



●講演会の感想・・・(アンケートより)

- ・最近になく心の温まるお話でした。
- ・絵本の楽しさを子どもたちに伝えたい。
- ・絵本の見方を再考させられました。
- ・会場が良かった。
- ・またこの空間で先生のお話を聞けると嬉しいです。
- ・先生の紹介して下さった絵本はすべて読んでみたくなりました。
- ・もっと子どもにファンタジーの世界を体験させてあげたいと思いました。
- ・なぜファンタジーにひかれるのか、改めて考えさせられました。
- ・バーチャルな映像文化とのつきあい方、ゲームとの折り合いをどうしたものか・・・。
- ・先生が立ちっぱなしだったので、なんか申し訳ない気持ちでした。
- ・ファンタジーについての決めごとなど、実例から学べたのはよかった。
- ・ファンタジーの入り口、うさぎの穴はどこに、どんな風にあるのか探してみたい。
- ・中身の濃いお話をたっぷり聴くことができ、楽しかった。
- ・何気なく読んでいた絵本でしたが、構成面など作り手側のお話が聴けておもしろかった。

●もりひさし講演会(10/13)参加者数：47名 絵本展来展者数：256名

「歌とピアノのコンサート プレリユード♪」・・・(12日)

いつもZEROキッズが歌のレッスンでお世話になっている相原郁美先生のピアノに、ソプラノの竹田有輝子さん、バリトンの鶴川勝也さんが加わった、大人から子どもまで楽しめるコンサート。

選曲も、「赤とんぼ」「もみじ」といった日本の歌から、「エリーゼのために」「ノクターン」のような誰でも聞いたことのあるクラシック、オペラ「魔笛」から「夜の女王のアリア」と「papapa」など、とても幅広く、親しみやすい内容でした。ZEROキッズが加わって歌う「ふるさと」と「ポニョ」では、会場からも歌声が響いていました。



キッズアートハウス

歌とピアノのコンサート ～プレリユード♪

<出演>

ソプラノ：竹田有輝子	<予定曲>	10月12日(日)
テノール：鶴川勝也	♪カタリカタリ	午後2時～3時
ピアノ：相原郁美	♪ノクターン Op. 9No. 2	
	♪アメイジンググレイス 他	

場所：キッズアートハウス (旧東中野保育園 東中野1-35-5 東中野図書館1階)
 対象：幼児から大人まで (ご家族でお出かけください)
 入場無料 (先着60人)

主催：ZEROキッズ
 T&F：3360-9875
 メール：info@c-cnet.org

秋の日曜日の午後・・・
 クラシック音楽を聴きながら
 ゆったりと優雅なひとときを。

●来場者の感想・・・(アンケートより)

- ・誰でも平等に感動に出会えると思いました。
- ・クラシック音楽はなかなか聴く機会がないのですが、こんなに身近な場所で、しかも無料で聴けるなんて素晴らしいと思いました。
- ・生で聴ける機会がないので、子どもたちにもよかった。
- ・クラシックに興味を持てるきっかけになった。
- ・子ども(ベビー)も一緒に聴ける音楽会はうれしい。
- ・素晴らしい演奏会をとてもカジュアルな雰囲気の中で聴けて楽しかった。
- ・身近で気軽に来られてうれしい。
- ・親しみやすい選曲もよかった。
- ・子どもが笑顔で聴いていたのがよかった。
- ・小さな子がいるとコンサートに行けず、金銭的にも余裕がない。このように手軽に参加できてよかった。
- ・ポピュラーな曲が多く聴きやすかった。
- ・小さな子どもと一緒に参加できるこのような機会をまたつくってほしい。
 - ・子どもや赤ちゃんが泣いても自然に受け入れている雰囲気がよかった。
 - ・コンサート会場とちがって、間近で鑑賞できてとてもよかった。

●参加者数：95名(0歳～80歳代まで年代多様)

お話ミュージックシアター「お菓子の船ミルフィーユ号の冒険航海記」

・・・(22日)

ワンダーアストライアのメンバーのお兄さんお姉さんが、音楽に合わせてお話を演じました。

1歳の赤ちゃんも「はらぺこあおむし」の大型絵本に見入っていました。

絵本作家のせなけいこさん、もりひさしさんも一緒に楽しんでいました。



**ワンダーアストライアの
お話ミュージックシアター
かわら版**



あるすじ
お菓子で出来た不思議なお菓子の船ミルフィーユ号は、ある時運送の子タジツの出会いをとお母さんと間違えている子タジツの冒険を見ることになりました。子タジツとミルフィーユ号の乗組員たちはすっかり仲良しに・・・でも、ある時、船が荒れはじめてきました。さあ、どうなるのでしょうか・・・

プロジェクトによる絵と唄とお話でつづる「お菓子の船ミルフィーユ号の冒険航海記」近日開演です！！・・・ですがこの日はどの仲間達が、みんなに会いにやってくる。どうして？・・・ぞれ絵 いっしょに冒険にいってくれる「ちびっこ乗組員」を探しているからなんだ。

10月22日(水) 午後2時50分から3時20分まで

キッズアートハウス 入場無料

河の総合市民館とミルフィーユ号子タジツ乗組員を募集しています。本演の始まる何日前に募集をします。子どもたちは船員ハットを作り紙でついたり、かんたんなセリフの練習したり、大人たちは海の図になって動いたり、そしてみんな歌の練習をしますよ。さあ、たのしく動きながら、乗組員のしごとをおぼえてゆきましょう。



ワンダーアストライアは、郡内各児童館・学校・公民館ホールなどで、子どもたちといっしょに舞台をつくり、たのしいお話を演じています。
ホームページ <http://www.astralasprits.com>
Tel 03-5875-5778 fax 03-5451-3347

運営 ワンダーアストライア
出演 おぎはらしずか・川島由美・加藤玲子・上島真子・松谷剛
協力 特定非営利法人ZEROキッズ 電話 3360-9875

「ママゴスペル 1day レッスン」・・・(27日)

ママゴスペルチーム Sister☆Sister

初心者の子連れママさんを対象にした、歌とダンスのレッスン。当日は 10 名の子連れママさんが参加。各方面で教室をされている 近藤メイ先生のレッスンで、マライヤキャリーの



“jesus what a wonderful child” を歌いました。最後は、ヒゲダンスまでしちゃう始末。子どもたちはハイハイしたり、自由にあそんだり、手拍子する子も。ひなたでは、お昼寝。最後はみんなで記念撮影！



「ハロウィンパーティー」・・・(31日)



★Kids プログラム★

4時～6時 ジャックオーランタンづくり

5時～6時 ミニパペット、バルーンをつくろう！

6時～7時 おはなしびっくり箱

仮装大賞（こどもも大人も）発表！

お菓子大作戦トリック・オア・トリート！

★Adult プログラム★

8時～ベリーダンスステージ

8時半～暗闇ピアノライブ（谷川賢作）

なるべく仮装して来てください。多少の用意はあります。（着替えもできます）

こどもは、保護者同伴なら7時以降も参加できます。

大人の方はお菓子（こども「Trick or Treat」と言われた時にあげる）をご持参ください。

（一人の子にアメー個とかでいいですから）

入館料¥500（小学生以上） 食べ物・ドリンク・タロット・その他あります。（有料）

（ZERO キッズのブログ「イベントのご案内」より抜粋）

●Kids プログラム

・ 4時から、ジャック・オーランタンづくり。
本物の西洋カボチャをくりぬいて作ります。

・ 5時からは、どんきい劇場のスポンジパペット
づくり。

使うのはビーズと接着剤とはさみだけ！



・ 6時から子供向けのステージ。絵本の読み聞かせや、人形劇。

（NPO 元気な図書館のスタッフ、地域の読み聞かせサークル「おはなしびっくり箱」の皆さん）

- ・ 7時前に、仮装コンテスト。



- ・ Kids プログラムの最後は、大人は、かならずお菓子を持ってこなくてはいけないということになっていて、トリック・オア・トリート！タイム！子どもたちは、大人のところに行って、たくさんのお菓子を貰いました。

●Adult プログラム

ここからは、大人の会。

ランタンにも火がともされて、庭には、たくさんのカボチャがなりました。

会場の照明が落とされ、スポットライトと、もう一台のライトだけになり、アートハウスが妖艶な夜の顔に。メイクや小道具もハロウィンほく雰囲気抜群



- ・ infiny さんのオカリナ
 - ・ デリバリー劇団まりまり
 - ・ アンサンブルグリーン
 - ・ ママベリーダンサーズ
- ・ ラストは谷川賢作 夜の大王コンサート
ZERO キッズの子供たちも最後に一緒に歌う。



参加者数 160名

- ・ T夫妻のハロウィンメニューは大好評！

<7>キッズアートハウス利用状況

		準備	講座等	開放	貸出	会議	内容	備考	乳幼児	小学生	中高生	大人	不明	合計	
7月	19	土	○				設営作業				4	9		13	
	20	日	○			○	設営作業			16	9	20		45	
	21	月	○	○			空間づくり	CTN取材		16	4	18		38	
	22	火	○	○			空間づくり			6	3	8		17	
	23	水	○	○		○	空間づくり	東京新聞取材	1	5	2	13		21	
	24	木													
	25	金	○	○			空間づくり		1	8		7		16	
	26	土	○	○○			○	空間づくり、音遊び		4	11	9	43		67
	27	日	○	○○				演劇・空間、看板づくり	リトルママ取材	5	22	14	38		79
	28	月	○	○	○			空間づくり		1	15	6	8		30
	29	火	○	○	○			空間づくり		1	12	5	6		24
30	水	○	○	○			空間づくり			3		5		8	
31	木														
8月	1	金	○		○	○	撮影	映像館		6	1	13		20	
	2	土	○	○	○		○	空間づくり		1	1	2	6	10	
	3	日	○	○○	○		○	演劇・子育て学習会	ZEROキッズ	2	17	12	25	56	
	4	月	ZEROキッズ合宿のため休館												
	5	火	ZEROキッズ合宿のため休館												
	6	水	ZEROキッズ合宿のため休館												
	7	木	ZEROキッズ合宿のため休館												
	8	金			○						1		6		7
	9	土		○	○		○	演劇	ZEROキッズ	2	8	10	12		32
	10	日			○						4		7		11
	11	月			○		○	ネットワーク会議	ZEROキッズ		2		3		5
	12	火			○	○	○	撮影・プログラム会議	映像館		2	1	21		24
	13	水			○			教材撮影	映像館		3		10		13
	14	木	○					補修作業					4		4
15	金			○		○	親子会議・親睦	ZEROキッズ	3	18	12	30		63	
16	土	夏休み休館													
17	日	夏休み休館													
18	月		○	○						13	7	8		28	
19	火			○		○	コミュニティアート会議	ピアノ搬入、調律				10		10	
20	水			○		○	NPO会議作業	ネットワーク会議		4		6		10	
21	木														
22	金		○	○	○		障害者音楽教室	池田		3		6		9	

		準備	講座等	開放	貸出	会議	内容	備考	乳幼児	小学生	中学生	大人	不明	合計	
8月	23	土	○	○	○		障害者アート	エイブル・アート・ジャパン		2		40		42	
	24	日		○					2			7		9	
	25	月		○		○	会議	元気力発伝所				10		10	
	26	火		○						3	1	4		8	
	27	水		○		○	コミュニティアート会議		2			7		9	
	28	木													
	29	金		○				図書館休館	2			9		11	
	30	土		○					5			11		16	
	31	日	○○	○		○	ダンス・演劇	ZEROキッズ、東京桜組	2	20	11	33		66	
	9月	1	月		○				研究所員見学	7	4		17		28
2		火	○	○	○		ママベリーダンス	こぶたラボ(託児付)	11	3		23		37	
3		水		○					3	3		9		15	
4		木													
5		金		○				地域の方見学		6	1	6		13	
6		土		○					1	4	1	6		12	
7		日	○○	○		○	歌・ダンス	ZEROキッズ	1	23	8	29		61	
8		月		○		○	コミュニティアート会議		2	5		15		22	
9		火	○	○	○		ママベリーダンス	こぶたラボ(託児付)月刊カッセ取材	8	4		22		34	
10		水	○○	○			子育て広場、看板作り	ドロップイン	8	7		9		24	
11		木													
12		金		○	○	○	子育て学習会	ルシエール	6			21		27	
13		土	ZEROキッズ合宿のため休館												
14		日	ZEROキッズ合宿のため休館												
15		月	ZEROキッズ合宿のため休館												
16		火	○	○	○	○	ママベリー、アート会議	こぶたラボ(託児付)	6	7		25		38	
17		水		○				見学者	3	13		7		23	
18		木													
19	金	○	○	○	○	障害者音楽教室		2	6		6		14		
20	土	○	○	○		演劇ワークショップ	ZEROキッズ		14	7	11		32		
21	日	○	○	○		○	キッズアートハウス祭り	ZEROキッズ	35	52	11	112	210		
22	月	○○	○	○○		産前産後のエクササイズ	こぶたラボ	7	5		14		26		
23	火	○	○			演劇	ZEROキッズ	4	31	18	21		74		
24	水	○		○			害虫駆除作業	5	8	2	7		22		
25	木	○				○									
26	金		○○	○	○	○	障害者音楽教室・フォーラム	消防訓練	4	2		40		46	

			準備	等講座	開放	貸出	会議	内容	備考	乳幼児	小学生	中学生	大人	不明	合計
9月	27	土		○	○	○		障害者アート、撮影	エイブル・アート・ジャパン、映像館	5	4		31		40
	28	日		○○	○			歌・ダンス	ZEROキッズ	2	38	15	20		75
	29	月		○○	○	○		産前産後のエクササイズ	こぶたラボ	9	4		20		33
	30	火		○	○	○		ママベリーダンス	こぶたラボ(託児付)	10	5		21		36
10月	1	水		○	○	○	○	撮影・アントレわくわく	映像館、ZEROキッズ	1	18	8	7		34
	2	木													
	3	金			○					2	5		7		14
	4	土		○○	○	○		歌・お絵かき	青空いんぶろ、取材	6	15	6	14		41
	5	日		○	○		○	歌	ZEROキッズ	1	35	13	16		65
	6	月		○○	○	○		産前産後のエクササイズ、ボディメンテナンス	こぶたラボ	13		1	29		43
	7	火		○	○	○		ママベリーダンス	こぶたラボ(託児付)	5		3	19		27
	8	水			○					4	5	2	10		21
	9	木													
	10	金	○	○	○	○	○	こぶたカフェ・子育て交流会	こぶたラボ	30	2		66		98
	11	土	○						絵本展準備				5		5
	12	日	○	○○	○	○		絵本講座・コンサート	あおむしくんの会/ZEROキッズ	22	18	14	56	7	117
	13	月		○	○			もりひさし講演会		8			53	6	67
	14	火		○	○	○		ママベリーダンス	こぶたラボ(託児付)	5		1	20	4	30
	15	水		○	○	○		子育て学習会	ルシエール	2	10	10	40	24	86
	16	木													
	17	金	○		○				ハロウィン準備	1			4	4	9
	18	土			○					6	4		19	15	44
	19	日		○○	○		○	表現ワークショップ、粘土のお菓子づくり	ZEROキッズ	6	31	8	22	11	78
	20	月		○○	○	○		産前産後のエクササイズ、ヨガストレッチ	こぶたラボ	19	3		24	16	62
	21	火		○	○	○		ママベリーダンス	こぶたラボ(託児付)	16	0		19	11	46
	22	水		○	○			お話ミュージックシアター	ワンダーアストライア	16	0		47	21	84
	23	木													
	24	金		○	○	○	○	障害者音楽教室	保育園園長見学	1			22	7	30
	25	土		○○○	○	○		親子でリトミック、障害者ダンス、演劇	青空いんぶろ、ZEROキッズ	9	7	6	18	12	52
	26	日		○	○		○○	演劇、高校生の会	ZEROキッズ		17	11	26	28	82
	27	月		○○○	○	○○	○	エクササイズ、ゴスペル、演劇、地域学習会	こぶたラボ、小滝町会、東京桜組、中野こどもまちアート実行委員会	16	0	1	52	17	86
	28	火		○	○	○		ママベリーダンス	こぶたラボ(託児付)、産経新聞取材	6	4	1	16	9	36
	29	水			○	○	○	演劇	東京桜組	2	1	1	21	13	38
	30	木	○				○		保育園関係見学	2	0		11	9	22
	31	金	○	○	○			ハロウィンパーティー	(ハロウィン160人)	1	0		6	180	187

		準備	講座等	開放	貸出	会議	内容	備考	乳幼児	小学生	中学生	大人	不明	合計	
11月	1	土	〇〇	〇	〇〇	〇	子育て講演会・障害者ダンス	こぶたラボ、青空いんぷろ、アスナ取材、保育園関係見学	2	3		42	24	71	
	2	日	〇〇	〇	〇		演劇・保育園クラス会、お話し会	ZEROキッズ・元東中野保育園、元気な図書館	11	34	19	31		95	
	3	月	〇	〇			演劇	ZEROキッズ、保育園関係者見学	1	13	6	16		36	
	4	火		〇	〇	〇	ママベリーダンス	こぶたラボ(託児付)	7	0		13		20	
	5	水			〇	〇		出版社の方見学	0	1		5		6	
	6	木													
	7	金			〇						3		4		7
	8	土			〇					2		2	7		11
	9	日		〇	〇			表現ワークショップ	ZEROキッズ		28	16	14		58
	10	月			〇					2			4		6
	11	火			〇	〇		ママベリーダンス	こぶたラボ(託児付)	5	9		14		28
	12	水			〇		〇			0	3		5		8
	13	木													
	14	金						片付け作業に入る					3		3
	15	土	〇										8		8
	16	日	〇	〇		〇		表現ワークショップ、演劇	ZEROキッズ、東京桜組		42	17	40		99
	17	月							暖房切り替え工事				2		2
	18	火				〇		ママベリーダンス	こぶたラボ(託児付)	5		1	16		22
	19	水				〇	〇	ママベリーダンス	こぶたラボ	5			13		18
	20	木													
	21	金				〇			ITグループ				10		10
	22	土	〇					片付け		0		10	2		12
	23	日	〇	〇		〇		表現ワークショップ、演劇	ZEROキッズ、東京桜組		44	22	60		126
	24	月	〇					片付け		1		6	3		10
	25	火	〇	〇		〇		ママベリーダンス	こぶたラボ(託児付)	4			12		16
	26	水	〇	〇		〇	〇	ママベリーダンス	こぶたラボ	11			18		29
	27	木													
	28	金	〇			〇			東京桜組				25		25
	29	土	〇										6		6
	30	日	〇	〇〇		〇	〇	表現ワークショップ、演劇	ZEROキッズ、東京桜組	2	10	38	75		125
12月	1	月	〇									2		2	
	2	火	〇			〇		東京桜組				26		26	
	3	水	〇			〇						3		3	
	4	木	〇					ピアノ搬出。鍵返却				5		5	
									431	834	399	2088	418		
									総計					4170人	

＜ 8 ＞ 参加・協力団体・個人

(アイウエオ順)

- ・ 相原郁美 (ピアニスト：クラシックコンサート)
- ・ 青空いんぷろ (ダンスワークショップ)
- ・ あおむしくんの会 (絵本づくりの会)
- ・ アスナ (朝日新聞地域情報紙)
- ・ アトリエ彩夢 (粘土玉、キッズアートハウスまつり)
- ・ アンサンブル (カワイ楽器広報誌)
- ・ アンサンブルグリーン (音楽家：ハロウィンパーティー)
- ・ e-club (食育：キッズアートハウスまつり)
- ・ 池田邦太郎 (音楽家：音あそび、障害児者のための音楽教室)
- ・ 牛草超子 (親子リトミック)
- ・ 映像館
- ・ エイブル・アート・ジャパン (アトリエ・ポレボレ)
- ・ 大多和勇 (演劇企画くすの木：演劇ワークショップ)
- ・ おはなしびっくり箱 (おはなし・大型紙芝居)
- ・ 株式会社河合楽器製作所 (ピアノ無償レンタル)
- ・ 熊倉純子 (東京芸術大学教授：フォーラム)
- ・ 元気な図書館 (おはなし会)
- ・ 小滝町子供と共に進む会
- ・ こぶたらボ (学習会、エクササイズ)
- ・ 笹川万国
- ・ 佐々木桃 (粘土でつくるフェイクスイーツ)
- ・ 佐藤安夫
- ・ 産経新聞 (取材)
- ・ 首藤智慧 (ちっちのお絵かきワークショップ)
- ・ 鈴木歩佳 (活動補助)
- ・ JCN 中野 (取材)
- ・ 体験芸術研究所・アトリエまあん・加藤治男 (造形作家：あなあなラビリンス)
- ・ 第一杉の子作業所
- ・ 高橋悦子 (表現あそび)
- ・ 竹田有輝子 (声楽家：クラシックコンサート)
- ・ 谷川賢作 (作曲家・ピアニスト：ハロウィンパーティー)
- ・ 鶴川勝也 (声楽家：クラシックコンサート)
- ・ デリバリー劇団まりまり (ハロウィンパーティー)
- ・ 伝承文化研究所 (百人一首)
- ・ 東京環境構造センター
- ・ 東京桜組 (演劇)

- ・ 東京新聞(取材)
- ・ トリ音(テルミン奏者、キッズアートハウスまつりでコンサート)
- ・ ドロップインほっとほっと(子育て広場)
- ・ どんきい劇場(ハロウィンパーティーでミニパペット作り)
- ・ 中野こども・まち・アート実行委員会
- ・ 中野コミュニティアートを考える会(フォーラム)
- ・ 中野 NPO ネットワーク
- ・ 中村功(中村工務店)
- ・ 名田いくこ(漆喰の看板制作)
- ・ 西垣耕造(東京演劇集団風、フォーラム)
- ・ ネイチャーワークスジャパン株式会社(アート材料提供)
- ・ のぐちひろし(キッズアートハウスまつり)
- ・ 原まり子(エアロビクス)
- ・ パントマイムクリエイション・マリオ(キッズアートハウスまつり、ハロウィンパーティー)
- ・ Pecco(詩作、活動補助)
- ・ ママゴスペルチーム Sister☆ Sister
- ・ ママベリーダンス OR_LOSE
- ・ 三好良子(人材育成コンサルタント:子育て講座、グループワークトレーニング)
- ・ もりひさし(児童文学者:絵本講座・絵本展)
- ・ 山口敦
- ・ 読売新聞(取材)
- ・ ルシエール(子育て学習会)
- ・ 早稲田大学都市デザイン科有志
- ・ ワンダーアストラリア(おはなしミュージックシアター)

コーディネーター: 佐々木香
 倉橋文子
 小山郁子

アドバイザー: 中埜博
 三好良子
 井澤秀雄
 神谷明宏
 柄田明美
 鳥越けい子
 江口済三郎

ZERO キッズのこどもたち
 ZERO キッズママ&パパの会
 高校生キッズの会



第 4 章

事業の評価とこれから



<1>キッズアートハウスの反響.....

●新聞記事より（東京新聞平成20年8月3日）

2008年(平成20年)8月3日(日曜日) 12版 社会 26

中野区 閉園保育園 アトリエに

東京新聞

段ボールで大樹をつくる 子どもたち—中野区で

キッズ」。子どもたちが自分たちのアイデアで創作活動をする場を提供するのが狙いだ。骨組みや土台づくりは大人たちが協力するが、そのほかは子どもたちの世界。七月下旬から小中学生を中心に、多くの子どもたちが訪れている。

ZEROキッズは一九九三年、区立ホール「なかのZERO」の開館をきっかけに誕生。子どもたちによるミュージカルなどを企画してきた。キッズアートハウス」は十一月までの期間限定だが、佐々木香理理事長は「昔の原っぱのように今年や学校を超えて子どもが集まるような場にしたかった」と話す。

七月末の夏休み、巨木の飾り付けにきていた同区の小学二年生、櫻香さんと、江東区の小学五年生、大和君は「自由にできるといい」と、魅力を話す。幼児を連れて近所の母親も訪れ、アートの輪は大きく広がっている。

東京都中野区の東中野駅近くにある「キッズアートハウス」。今年三月まで保育園として使われていたフロアリングの部屋中央に、天井まで届く段ボールの巨木が育っていた。周囲には、お菓子の家や迷路のような隠れ家もあり、夢いっぱいのもたちは放課後、ここで芸術家になる。運営するのは同区のNPO法人「ZERO




●新聞記事より（朝日新聞地域情報紙アスナ平成20年9月21日、10月19日）

2008年(平成20年)9月21日(日) 第54号 asuna-9月

期間限定オープン キッズアートハウス

閉園になった区立東中野保育園(東中野1-21)を、3カ月間レンタルし、フリーな期間付きで借り受けて予定。ママニティもや大人が集う場所として、22日・29日、コテいろいろな企画が進められている。

借り受けたのは、子どもとがあり、アート活動もできる。ZEROキッズにも使われる。詳細はキッズアートハウス(3360・9875)。

▲キッズアートハウスの看板。漆喰を使うワークショップで制作



中野情報 nakano

2008年(平成20年)10月19日(日) 第55号 asuna-10月

アートで 結ぶ まちづくりを

中野区から借り受けた旧東中野保育園跡に、子どもたちの手でアイデアが詰まった夢のスペース・キッズアートハウスが完成したのは夏休み中。その後には、音楽会やお話し会、ワークショップなどが連日開かれており、アートで街を元気にしたいというシンボリズムを開催するなど、幅広い年代層が集まっている。

スペースは期間付きのものであり、使用期間は11月3日までとのこと。催しは引き続き実施する中で、「もりひさし絵本展」は11月1日まで、11時～18時。木曜休館。詳細はキッズアートハウス(3360・9875、東中野1-35-5)へ。



●新聞記事より（読売新聞平成 20 年 10 月 18 日）

◆もりひさし絵本展 絵本『しろくまちゃんのほっとけーき』の創作や、エリック・カール作『はらぺこあおむし』の翻訳などで知られる児童文学者森比左志さんの絵本展が、11月1日まで東京・東中野のキッズアートハウス（☎03・3360・9875）で開かれている。森さんの絵本約80点を展示、手にとって読める。入場無料、開館は午前11時～午後6時、木曜休館。

●新聞記事より（朝日新聞地域情報紙アスナ平成 20 年 12 月 21 日）

もりひさしさんの絵本展と講演会

ZEROキッズの拠点キッズアートハウス（中野区東中野1-35-5）で一カ月間開かれたもりひさしさんの絵本展。「こぐまちゃんえほん」や「くまのアーネストおじさん」などシリーズものを含めて絵本はおよそ百冊。自由に見ることができるとあって、子ども連れや年配者などが気軽に訪れ、絵本の魅力に浸っていた。

作家のもりひさしさんから絵本作りの「あおむしに美しい日本語で表は、中野区に在住する絵しゅんの会」の中心と現するかに細心の注本作家で、期間中にもりなつて講師活動を。講演意を払うと明言されさんの講演も開かれた。では「絵本は読み聞かせた。20歳の頃に短歌の道にのるのではなく、絵をよく入ったというもりさんだ。子どもに見が、その後絵本作りにたせてくださずさわることになり、絵い」と言本創作・翻訳の道へ進い、良い絵み、現在は、日本児童文かき手がい学者協会名誉会員、中野なれば良区教育委員準公選初代教い絵本が出育委員の傍ら、幼児教育来ないと話に熱い思いを寄せる。91し、また翻訳は直訳で歳を超えてなお元気で多訳は直訳で忙な毎日だが、十数年前なく、いか



▲ダンボールを使って手作りした展示棚にならべた絵本。みんな手を伸ばせる気軽さがあり、アートハウスらしい展示だ

2、3階が図書館であるキッズアートハウスで、図書館と同じ本を並べたのではつまらないと、地元の作家もりひさし先生に相談して絵本展が実現しました。もりひさし絵本展は、たいへん好評でした。地域にこんな有名な作家が住んでいることを地域住民は意外に知らないものです。偕成社、金の星社、こぐま社、ブックローン出版等の出版社の方も多く足を運んでくださいました。また先生のお仕事仲間のせなけいこさん（絵本作家）も見え、キッズアートハウスを楽しんでくださいました。

もりひさし先生の創作絵本、翻訳絵本その他、大型絵本や絵本のDVD等、先生の作品のほとんど180点ほどが集まりました。

親子で絵本を読む姿や、こどもよりも夢中になるお母さんの姿もみられました。大人にとってもほっとする空間であったのだと思います。

●新聞記事より（産経新聞平成20年11月5日）

新道にほど近いJR東中野駅から徒歩5分の住宅街にある区立東中野図書館。その一階に、子供や住民の交流スペース「キッズアートハウス」はある。今年3月末まで、区立東中野保育園が運営されていたが、周辺に開園した私立保育園に業務が移されたため、閉園。静まりかえった空間に再び子供たちの元気な声が響き渡るようになったのは、7月20日のことだ。

絵本を静かに読みふける子供たち。隣の部屋ではゲームで遊んでいた。お琴子の家。を前に、小学生がおもちゃの作りに励んでいる。紙と風船を使い、ちよんちよんを作っていた近所の小学4年、丸山菜月さん（10）は、「学校ではやらない体験ができるので、よく利用します」と笑顔が弾ける。

「うまくできたね」と丸山さんらに笑顔で声をかけていたのは地元住の高校3年、鈴木歩佳さん（18）。受験勉強の合間を縫って毎日のように通い、子供たちの面倒見や部屋の飾り付けにいそむ。「さまざまな世代の人とかかわること、柔軟なもの見方がで

少子化に伴う経営の効率化により、公立保育園の民営化が進み、廃園となった跡地の再利用が、地域の新たな課題となっている。地元で開放された特性を地域活性化に生かそうと、住民らの手によって有効に活用する試みを東京都中野区に追った。

（中島幸恵）

公立保育園の跡地、地域で考える再利用

世代超え、住民交流の場に

加速する民営化、私立が上回る

公立保育園の民営化は加速している。厚生労働省の調査によると、4月1日現在、公立は前年比で27.5割減り、1万1328園に。逆に私立は33.6割増え、1万1558園に上り、私立が公立を上



外装、内装とも自分たちの手で作り上げた。地域住民の関心は高く、子育て支援、交流の場としてシンボリックな存在となっている

さるようになった。後輩や中学生たちに伝えていきたい」と目を輝かせる。

中野区によると、区内では平成14年度から区立保育園の民営化を推進しており、今年3月末までに、東中野保育園を含む6園が廃園した。ただ、跡地を地域活性化につなげる具体的な取り組みはまだ、なかなか手が回らないようだ。区子ども家庭課長は「幼保連携の白土副課長は「（ほとんどの）廃園（跡地）の再利用策を検討中、まだはきりしていない」と話す。

キッズアートハウスは、



ど効率化を図る狙いがある。一方、安易な民営化には慎重な意見もある。経費削減を最優先する自治体もみられることから、保育そのものの質の低下が懸念されており、保護者や地域住民との十分な話し合いを求める声も上がっている。

●新聞記事より（読売新聞平成20年11月5日）

*キッズアートハウスの記事ではありませんが...

ハッピースマイル閉園 東中野駅前園 都が立ち入り

保育園「ハッピースマイル 東中野駅前園」（中野区）などを運営する「エムケイグループ」（豊島区）が経営難を理由に10月末で全園を閉鎖した問題で、都は4日、東中野駅前園に立ち入り調査した。都は保育士への聞き取りや書類を調査した。不備が発覚すれば、都の認証保育所の指定取り消しを検討する。社長とは連絡がつかず、経営難の理由は不明だった。

東中野駅前園は9月に開園。中野区は10月～来年3月分の運営補助に約1431万円を支出したが、実績のない約133.84万円分の返還を求め、在園の8園児は新しい受け入れ先が見つかったという。

10/22 に中野区にキッズアートハウスの新企画書を提出して「実験の100日キッズアートハウス以降も区の計画が決まるまで継続を検討してもらいたい」旨の要望書を提出しました。一時は継続ができそうな様子でしたが、ちょうど同時期にすぐそばにある認証保育園が開園一ヶ月で閉園して社長が行方不明という事件がありました。キッズアートハウスの継続が認められなかったのは、この影響が大？

●新聞記事より（読売新聞平成20年12月10日）

東中野保育園跡のキッズアートハウスの終了後、キッズアートハウスを継続できる場所としてせめて絵本のへやの本を「もりひさし文庫」として残したいとの思いから、場所を探したがなかなかみつかりません。とりあえず、次に場所が見つかるまで、仲町児童館の2階のたかまるルーム（元は学童クラブ室だったが、小学校の統廃合に伴い、仲町児童館には学童クラブ室がなくなった）に絵本を置き、講座開催日のみ「もりひさし文庫」も開くという形をとることにしました。

衆行 臨門

(第3種郵便物認可)

「こぐまちゃん」作者 森比左志さん

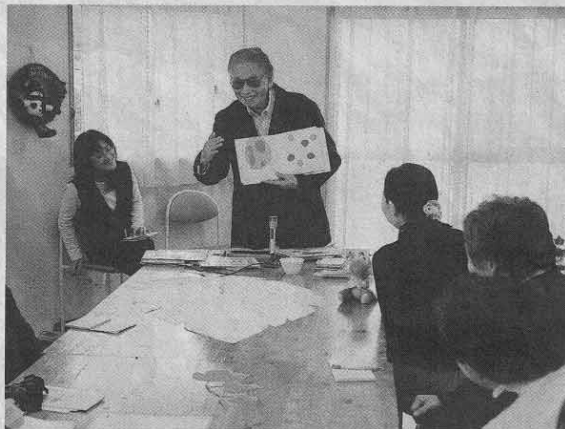
絵本の魅力楽しく講義

絵本「はらぺこあおむし」の翻訳や「こぐまちゃん」シリーズの作者として知られる児童文学者の森比左志さん(91)が、地元の中野区の児童館で絵本の魅力を語る無料講座を開いている。講座名は「もりひさし絵本文庫」。多くのファンを持つ森さんが一般向けに長期の講座を持つのは珍しい。(杉野謙太郎)

6日に開かれた講座の初回。森さんが絵本「しろいうさぎとくろいうさぎ」(1958年、ガース・ウィリアムズ作)のページをめくってみせ、「うさぎの絵のアップとロングを繰り返すことで、物語の起伏を感じさせる。場面構成は絵本の重要な部分です」と若々しい声で語りかけた。子連れの若い母親から中高年まで約15人の参加者はずっと聞き入った。

この日、森さんは1992年のベアトリクス・ポッター作の「ピーター・ラビット」出版を創作絵本の始まりと説明し、「しろいうさぎ」をその後の半世紀で最高峰の作品と位置づけた。ユーモアを交えた2時間の講義はあっという間に終了。杉並区の榎下秋穂さん(60)は「絵本は大人でも楽しめる」と改めて感じました」と満足していた。

「自分の話は絵本漫談」と楽しそうに話す森さん(中)



中野・仲町児童館 来年5月まで

森さんは約60年前、大学の付属施設の職員時代に絵本制作を開始。66年に絵本出版の「こぐま社」(文京区)の創立に参加し、「こぐまちゃん」シリーズ全15冊の文章を手がけたほか、共栄大教授や中野区の教育委員を務めた。日本児童文学者協会名誉会員でもある。講座は、同区内で子どもや母親たちの交流場所を運営するNPO法人「ZEROキッズ」理事長の佐々木香さん(51)が、近くに住む森さんに依頼して実現した。

森さんは「読み聞かせ」という言葉が定着したが、絵本はページをめくる瞬間に次の場面を予想し喜んだり悲しんだりがある。絵で心を伝えるものと知ってほしいと話す。講座は仲町児童館(中央)を会場に来年5月まで月1〜2回で全8回。参加者の年齢制限はなく、子連れでの参加や、1回だけの参加も可。会場では森さんの作品や翻訳約100冊を閲覧できる。

次回は1月24日で、「はらぺこあおむし」を取り上げるほか、「こどもの家出絵本」などのテーマで話す予定。講座参加者を募っている。また、今年21日から来年6月まで、森さんが絵本の制作技術を伝える講座「あおむしくんの会」も3回開く。受講無料。問い合わせはZEROキッズ ☎5385・9068へ。

新聞記事の反響もあり、絵本講座の問い合わせは一日20件以上ありました。学生から年配の方まで幅広く、地域も中野だけでなく東京23区や多摩、神奈川県までのあちこちから参加がありました。予定していた部屋では入りきらず、2回目は児童館の二階の大きい方の部屋で「絵本のおはなし」を開催しました。

管理や、他団体の使用の関係もあるので、常設のスペースとできないことは残念です。

もりひさし絵本文庫

神野児童館の二階で、「ほらべこおむし」でおなじみのエリック・カールや「くまのアーネストおじさんシリーズ」のガブリエル・パンサン、こぐまちゃん絵本シリーズなどもりひさし絵本約100点や、紙芝居が自由に見られます！
下記講座の日の1時～5時です。(入場無料)

もりひさし絵本のおはなし

第1回	2008.12/6 (土) 2:30-4:30	合わせて4冊の絵本、知ってる？ -世界の絵本の歴史100年が見える- しちいうきまるとくちいうきま -あおくとおむしちゃん- かしこいじん ほか	●おむしくんのお絵本講座は絵本を創る講座です。
第2回	2009.1/24 (土) 2:30-4:30	「ほらべこおむし」三つのなぞ -タイズをとけばそれが絵本1- ほらべこおむしほかエリック・カールの絵本から	あむしくんの会 絵本講座 2008.12/21 (日) 10:00-12:00
第3回	2009.2/7 (土) 2:30-4:30	ともてち絵本 -ななよしとげんかと- わたしとおそんで、ふたりほともだち -ごきげんななめのとらむし ほか	
第4回	2009.2/21 (土) 2:30-4:30	こどもの夢絵本 -こどもの心、夢の思い- フランスのいえて・ヒューター -夢田-わたしのさもをきいて ほか	
第5回	2009.3/7 (土) 2:30-4:30	三人目のおがきんは？ 母親書場の絵本から -あなななら どうする？- ピーターのといぬち -おかあさんのかえりか ほか	
第6回	2009.4/11 (土) 2:30-4:30	なべ絵本 -こどもがやうきうき- ほらべこがズラ -おれはねこだぜ、くいしんぼうのはなごん ほか	あむしくんの会 絵本講座 2009.3/15 (日) 10:00-12:00
第7回	2009.5/16 (土) 2:30-4:30	動物と人間と -まもること、あらかうこと- アンジュール -おひなごとりと、ぼくはまのままでいたかったに ほか	日時、会場は 変更の可能性があります。
第8回	2009.5/30 (土) 2:30-4:30	おじいちゃんのお話 -国文と語、書いてことと語- おじいちゃんわすれないよ、おじいちゃん、あの夏、覚えて ほか	あむしくんの会 絵本講座 2009.6/14 (日) 10:00-12:00

会場：神野児童館 2階
中野区中央3-41-1

アクセス
東武東上線/内線 新中野駅下車 徒歩5分
中野駅南口より京王バス 永福町行き
永福町行き
中央4丁目下車 徒歩1分

主催：キッズアートハウス
協力：あむしくんの会
神野児童館
連絡先：ZEROキッズ
Tel.&Fax 03-5385-9068
Mail info@zero-cnet.org

●議会記録より

平成20年12月1日第4回定例会

中野区議会議員 佐藤ひろこ 一般質問

NPO法人ZEROキッズが子ども家庭部の協力も得て、元東中野保育園を利用して、期間限定で子どもとアートの拠点「100日キッズアートハウス」事業を行いました。先日その事業が終わりましたが、期間中さまざまな団体が子どもとアートにかかわる活動を展開し、1,000人以上の親子が利用し、団体同士の連携も生まれました。区はこの取り組みをどう評価し、今後どのように生かしたいと考えているのか、お伺いいたします。

〔区長田中大輔登壇〕

○区長（田中大輔） 佐藤議員の御質問にお答えいたします。

文化、アートによる中野の活性化について、文化、アートはまちに新しい魅力やにぎわいを創出する核として位置付けているところです。中野区イメージアップ戦略として取り組んでまいりたいと考えております。

一中略

東中野保育園跡でのNPOがキッズアートセンターを実施されました。この事業は、創作活動を通じて、地域の子どもから大人まで世代を超えた交流の機会を提供し、子育て支援を行うという企画でした。その趣旨にかんがみ、区としても世代間交流などの可能性を検証するため、共同事業と位置付けて実施いたしました。さまざまなイベントの展開で多くの子どもたちが集い、所期の目的を達成したものと評価をしております。その成果については、区内でさまざまに展開される子育て支援の事業に今後生かしてまいりたいと考えております。

● カワイ楽器の広報誌
「アンサンブル」

カワイ楽器製作所からの
 ご厚意により、
 キッズアートハウスのピアノは
 期間中無料でレンタルしました。
 10/31のハロウィンパーティーの時に
 取材がありました。



イベントトピックス
 ②

キッズアートハウス in 東中野

昨年8月、東京・中野を中心に活動を続けるNPO法人ZEROキッズが閉園となった区立保育園にキッズアートハウスをオープンしました。3ヶ月にわたって「子ども」と「アート」をキーワードに、音楽、美術、身体表現、学習会などのさまざまな活動が行われ、河合楽器製作所からは、いつでも誰でも最高の音色が楽しめるようにとクラシンドピアノが提供されました。「ふしぎの森スタジオ」で行われたコンサートや障害児のための音楽教室などで活躍したピアノですが、お子さんと一緒にスタジオを訪れたお母さんが子どもの頃に習ったピアノ曲を弾く姿もよく見受けられました。

毎日のように興味深い趣向のイベントが続きましたが、10月31日にはハロウィンパーティーが行われ、会場は仮装した親子連れで溢れかえりました。一夜の最後を飾ったのは作詞・作曲家であり、ジャズピアニストでもある谷川賢作さんによる「暗闇ピアノライブ」。谷川さんとZEROキッズのお付き合いは8年になり、谷川さんがZEROキッズのために作った曲をピアノで演奏し始めると自然と歌の輪が広がりました。

取材：編集室



今号から本誌へ
 ピアノ作品を提供して下さっている
 谷川賢作さん。
 「作品を通してみなさんにジャズの音使いを
 楽しんでもらいたいと思います」



●来場者の感想より（アンケートより抜粋）

- ・わわくわくする場所。素晴らしい。
- ・とても素晴らしい空間に作りかえられていた。作るのはさぞ大変だったのでは？
- ・こんな場所で音楽や美術に触れられるのは理想的。
- ・子どもたちがとても楽しそうに遊んでいた。
- ・楽しいです！いつも勉強しにきています。キッズの環境が大好きです。
- ・手作りならではの空間でいつも感心させられています。
- ・すごい進化をしていて驚いた。
- ・独創的で夢にあふれた素敵な空間。
- ・森の中みたいで素敵。
- ・とても開放的でおもしろい場所。
- ・子どもたち、特に小さい子の遊び場としては、良いと思います（子育て支援）
- ・子どもたちのチームワークがとてもよかった。
- ・なくなってほしくない。
- ・乳幼児室もあり、よかった。
- ・とても可愛いスペースで、親子で遊ぶ場所があって、よかった。
- ・段ボールの迷路や（お菓子の）家など子どもたちが楽しそうだった。
- ・保育園のイメージがなく素敵。
- ・いろいろなものがあり、おもしろかった。
- ・子どもが安心して遊べる場所で楽しそう。
- ・こどもの育成に充分。
- ・広い。子どもが動きまわれるようになると楽しい。
- ・今までにない不思議な空間。
- ・子どもたちが喜ぶようなお菓子の家はとても素敵。
- ・大木の飾り付けはすごい。
- ・他にはない感じでめずらしい。
- ・子どもも大人も来て楽しい空間。
- ・板張り（のホール）が広くていい。
- ・手作り感にあふれていて素敵。
- ・アートの香りいっぱいの空間。
- ・最高でした！ずっとやってほしいです。
- ・大変楽しいところ。飾りや手作りおもちゃもよい。
- ・大変貴重な場所。
- ・（絵本のへやのように）本を置いて講演ができるような場所を続けてほしい
- ・手作りのダンボール・アートに囲まれた温かみのある空間。
- ・場所がわかりにくかったが、手作り感がいいと思う。子どもたちもなじみやすそう。
- ・お金をかけずにアイデアと人の力でこんな空間が作れることに驚いた。
- ・開放的な感じでよかった。



- ・楽しくてのびのびできる場所。
- ・子どもが遊べて手近に絵本があり、親子で絵本を見る場として最高だと思う。
- ・手作り感いっぱい居心地がよい。
- ・良い絵本がそろっていて驚いた。
- ・地域にこういう場所があるのはうれしい。
- ・子どもたちのパワーを感じる。
- ・お世話をされている方々の苦労も大変なものだと思いました。
- ・手作りのテーブル、本棚、飾り付けが温かい気持ちにさせてくれる。
- ・すごく落ち着いた気持ちで、ゆったりしたくなる場所でした。
- ・魅力的で夢がある。
- ・玄関の木の葉がかわいい。メルヘンで素敵。
- ・子どもの城の小規模バージョン。
- ・もっと継続すべきスペースだと思う。そのための運動が必要ではないか。
- ・ぜひ続けてください。子どもたちの声を身近で聞ける場所を作りましょう。
- ・子どもたちと親たちが過ごせる場所は必要だと思う。
- ・失くさないでほしい。
- ・子どもも大人も本にふれる貴重な場所だと思う。
- ・大人にも子どもにも必要なスペースだと思う。
- ・どうして継続できないのでしょうか？この素敵なテーブルはどうなるのでしょうか？
- ・これからの子どものために必要だと思います。
- ・続けてほしい。
- ・延長してほしい。このような子供たちがわくわくできる場所が必要だと思う。
- ・なくなってしまうのは残念。
- ・ぜひ継続してほしいと思います。そのためにどんなことができるでしょうか。
- ・誰でも気楽に立ち寄れる場所は必要。
- ・上の図書館とコラボレートができるといいと思う。
- ・久しぶりに中野の中で内容のある文化的な香りのするイベントに参加できてうれしかった。
- ・長く使わせてほしい。



＜2＞「新・キッズアートハウス」の提案・・・・・・・・・・・・・・・・

10月に入ってから、キッズアートハウス延長の声は一層大きくなってきた。これを受けて、新しい事業によってアートハウスを再編・再開する提案と延長要請を中野区に提出しました。提案した事業企画は以下の通り。具体的な41の企画がキッズアートハウスに関する団体・個人から集まりました。

・・・・・・・・・・・・・・・・*・・・・・・・・・・・・・・・・*・・・・・・・・・・・・・・・・*・・・・・・・・・・・・・・・・

新キッズアートハウス 事業企画書

(旧東中野保育園暫定利用計画)



2008. 10. 20

特定非営利活動法人 ZERO キッズ

キッズアートハウスは、特定非営利活動法人 ZERO キッズが、平成20年3月末をもって閉園となった旧東中野保育園を会場として、平成20年度子育て支援基金（独立行政法人福祉医療機構）助成事業「キッズアートハウジング事業」（後援 中野区）のモデル事業として、7/20～11/3の期間に実施しているものです。

100日間のモデル事業は11/3をもって終了しますが、場があることで、新たなつながりが生まれ、人材が発掘されたことは顕著な成果と言えます。本事業の成果をさらに継続発展させて、地域の自助共助による子育て支援、教育力の向上を図るため、「キッズアートハウス」の11月以降の企画書を作成しました。中野区の計画が決定するまで、旧東中野保育園の暫定利用としてご検討をお願いいたします。

事業概要

＜目的＞

1. 100日キッズアートハウスのモデル事業によりさらに広がった中野区における子どもや子育て、文化芸術に関する活動団体相互のつながりや連携を、当会がコーディネーター的役割を担いながら、サポートし、育てることで、

- ・ 子ども（乳幼児～若者）、大人、親子の居場所をつくる
- ・ 情報と人のネットワークの拠点をつくる
- ・ 中高生が地域活動に主体的に関わるきっかけづくりをする

2. モデル事業「100日キッズアートハウス」によりつながったネットワークを活かした子育て支援事業、居場所づくり事業を展開する。

＜期間＞

2008年11/4～ 暫定

<場所>

旧東中野保育園（中野区東中野 1-35-5）

<対象>

主に子ども・親子

- ・子ども全般（乳幼児・小学生・中高生）
- ・大人全般（子育て中の親・親予備軍の若者・子どものいない人・子どもが育った人）

<事業の内容>

1. キッズアートハウス運営委員会の開催

委員会は、専門家、地域団体・個人の有志により組織し、キッズアートハウスの企画調整、子育てと芸術文化のネットワークのサポートとアドバイスを行う。

2. 中高生委員会の開催

中高生企画、子ども企画のイベント等の実施のため、中心となる中高生で委員会を組織し会合を行う。専門家、育成者はサポートの立場でアドバイスを行う。

3. 子育て広場事業

平日の日中、子育て支援団体の協力により乳幼児親子対象の子育て広場として開放する。

4 居場所づくり事業

休館日以外の午後を乳幼児、小中学生の遊び場として開放する。

5. ワークショップ、講座の開催（詳細別添）

- ・自主企画講座：区内の子育て、教育、芸術文化関係の NPO やサークル、個人による企画のワークショップや講座等を実施し、それぞれが自主運営する。
- ・全体企画講座：キッズアートハウス運営委員会が中心となり、地域向け講座、学習会、ワークショップ、展覧会、コンサート等を実施。

<期待される効果>

●大人も子どもも・・・参加者の自己実現ができる場

まずは自分のやりたいことをやる、そして他の人にも楽しんでもらえる企画をする。企画のためのワークショップや実験を通して、自分で主体的に何かをする楽しさを発見します。

●子育て中の親にとって・・・自助共助の子育て支援ネットワークをつくる場

誰もがお客さんでなく、企画を提案したり参加したりできます。子育て支援サービスを一方的に受けるのではなく、時に自らがサービスの提供者になり、子育て仲間と共に学び育ち合う場です。

●子どもたちにとって・・・夢中になって遊べる場、いろいろな人に出会える場、

自分の好きなことをやる。興味のあることをやる。とことんやる。毎日できる。見守る大人がいる。面白いアーティストがいる。面白い大人がいる。

●地域にとって・・・世代間交流のできる場。情報交換の場。地域文化を発信する場。

ユニバーサルなコミュニティスペースとして、障害や年齢を超えて交流できます。

●アーティストにとって・・・自らのアートの発表の場、アートを通じた社会貢献の場
地域とのつながりが薄いアーティストや若者が、自らの表現活動により、地域の人たち
とつながり、またそれによって社会貢献ができます。

●NPO や団体にとって・・・自分の活動を見直し、広げ、ネットワークを作れる場。

団体の活動は、自分の活動しか見えなくなりがちですが、出会える場があることで、違う考え方
の人と出会い、新たなつながりが出来、活動を活性化することができます。

別紙：プログラム案

プログラム名	ジャンル	内容			対象者							
		ス ペ ー ス	学 習 会	イ ベ ン ト	乳 児	幼 児	親 子	小 学 生	中 学 生	高 校 生	大 人	障 害 者
1 もりひさし・絵本文庫	絵本	●			●	●	●	●	●	●	●	●
2 参加型アート作品展覧会	体験アート	●			●	●	●	●	●	●	●	●
3 子育て学習会「子育て魔女修行」	子育て		●								●	
4 マタニティ&産後エクササイズ	子育て		●				●					
5 初めてのベリーダンス	子育て		●									●
6 ボディメンテナンス研究会	子育て		●									●
7 乳幼児親子の広場事業	子育て	●					●					
8 子連れで歌おう！ママゴスペル1day講座	子育て・音楽		●				●					
9 ママとキッズの写真講座	子育て・写真		●				●	●				
10 ワンツー体操	子育て・体操		●				●	●				●
11 アロマベビーマッサージ	子育て		●		●	●	●					●
12 絵本講座	創作		●						●	●	●	
13 おやつカフェ	食育	●	●					●				
14 コミュニティアートカフェ	交流	●	●									●
15 ニットカフェ	手芸・交流		●					●				
16 親子で親しむクラシック	音楽			●	●	●	●	●	●	●	●	●
17 マジックワークショップ	マジック		●					●	●	●	●	●
18 パネルシアターで昔話をきく	お話			●		●	●	●				●
19 不思議の森のしゃぼん玉	科学			●	●	●	●	●	●	●	●	●
20 世界に一冊、私だけの本づくり	創作		●				●	●	●	●	●	●
21 国際交流の会	国際交流			●	●	●	●	●	●	●	●	●
22 キッズアートハウス絵本づくり	創作			●			●	●	●			
23 地域の遊び場づくり学習会	子育て・遊び場		●									●
24 障害児者親子のための音楽教室	障害者		●									●
25 障害児者のダンスワークショップ	障害者		●									●
26 ダンスワークショップ	障害者・交流		●				●	●	●	●	●	●
27 お話ミュージックシアター	音楽・お話			●		●	●	●				
28 俳句作り講座	創作		●				●	●	●			
29 作って歌ってお話しよう	朗読・創作		●				●	●	●			
30 歌のパネルシアターで遊ぼう	音楽・創作			●		●	●	●				
31 中高生のための演劇ワークショップ	演劇		●						●			
32 表現とコミュニケーション基本のき	コミュニケーション		●						●			
33 表現とコミュニケーションいろはのい	コミュニケーション		●					●				
34 ミュージカルを創ろう！	表現・創作		●					●	●	●		
35 アニメーション遊び	表現・創作		●					●	●	●		
36 手芸教室	手芸		●					●				
37 教材開発グループワークトレーニング	グループワーク		●					●	●	●		
38 伝統の季節行事を楽しむ	日本文化		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
39 親子で楽しむ百人一首源平かるた教室	日本文化		●				●	●	●	●	●	●
40 百人一首かるた読み手教室	日本文化		●					●	●	●	●	●
41 寺子屋こころ塾	日本文化		●					●	●	●	●	●

※このプログラムは、現在ネットワークする子育て・アート系の団体に企画をよびかけて集まったものです

しかし、中野区からの回答は「片付けのための期間1ヶ月の延長を認める」というものでした。
やむなくキッズアートハウスは12月3日をもって閉鎖することとなりました。

< 3 > 実験の終わり — キッズアートハウス撤収の記録……

- 11月15日(土)……………運営委員会：キッズアートハウス撤収の段取りについて
- 16日(日)……………保護者会：キッズアートハウス撤収の段取りと日程の説明
運搬、ゴミの始末等
絵本梱包など、片付けられる部分は作業開始
- 19日(水)……………絵の具、パネルなど事務所へ運搬
- 22日(土)……………撤収作業：ダンボールのお菓子の家、樹、机の解体
木の葉っぱや壁の装飾の取り外し
ゴミの始末
- 23日(日)……………軽トラックを借りて大物の撤収作業：
机、椅子、冷蔵庫などを事務所へ運搬
木の葉っぱや壁の装飾の取り外し
ゴミの始末
- 24日(月)……………撤収作業予備日：前日の残りの作業、角材、ベニヤなどの始末
ゴミの始末
- 29日(土)……………大工の中村さん他により、照明、鏡、パイプ、木枠の取り外し
- 30日(日)……………大工の中村さん他により、外の看板を降ろす
仕切りのパネル、外したドアなど修復作業
清掃
材木、ゴミの運び出し
- 12月1日(月)……………清掃
- 4日(木)……………ピアノ引き取り
現状復帰確認
中野区へ鍵返却



＜4＞これから — 「キッズアートハウス」事業への提言……

「キッズアートハウジング事業」の実験を終えて

—100日キッズアートハウスはZEROキッズと中野に何をもたらしたのか

株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 研究員 柄田明美

1. ZEROキッズの活動と「100日キッズアートハウス」の持つ意味

NPO法人ZEROキッズは、なかのZERO大ホールの開館記念区民参加事業「親と子のオペレッタ」(1993年)から生まれた芸術文化と教育を活動の主軸とするNPO(以下アートNPO)であり、その活動を振り返ると、アートによって子どもたちの成長を支えるという当初からの目的に加え、さらに新たな方向性を持って活動を展開していることがうかがえる。それは、中野区におけるアーティスト・芸術団体やアートNPOとの連携を拡げること、および、アートを媒介に中野区の子育て、教育、福祉、まちづくりをつなげていくことではないだろうか。

ZEROキッズが将来的な夢として「キッズミュージアム構想」を掲げているのは、そうした新しい方向性を探る中で、子どもたちの居場所づくりはもちろん、中野区のアーティストや芸術団体、他ジャンルのNPOなど多様な活動主体が集まる場(拠点)が必要だと強く実感しているからだろう。したがって今回の「100日キッズアートハウス」は、期限つきではあるものの、ZEROキッズにとっては、場を運営するという夢の実証であり、大変意義深いものであったといえる。

2. 「100日キッズアートハウス」の評価と課題

この事業からZEROキッズが得た大きな効果は、中野区の芸術文化活動やNPO活動のネットワークづくりにおいて十分な手ごたえが得られたことだろう。

キッズアートハウスの運営や事業実施においては、芸術文化はもちろん、多様なジャンルの個人や団体から多様な形での協力があり、7月から12月(実質的には11月いっぱい)の間にキッズアートハウスで事業に関わったアーティストや芸術団体、NPOなどは50団体(人)以上、そのほかボランティアとして関わった関係者を含めると、実に多くの人がキッズアートハウスに集まったことになる。

そもそも中野区は芸術団体や芸能事務所が多いことに加え、ZEROキッズをはじめ、先駆的かつ継続的な事業を展開している団体が存在するが、芸術文化活動やNPO活動相互の横の関係が希薄であることが指摘されていた。

今回、多様な活動主体相互のネットワークの礎ができたことは、ZEROキッズというNPOの財産になっただけでなく、中野区のアート活動やNPO活動全体にも大きな効果をもたらしたといえるだろう。誰もが気軽に集える「場」があることは、人と人を結び、活動同士を結ぶということを、キッズアートハウスに関わった皆が実感したはずだ。

その一方で、ZEROキッズとしては、100日間という限られた期間の中で生まれたネッ

トワークの芽をどのような形で育てていけばいいのかという、今後の課題に直面したことだろう。「場」の持つ効果を実感したことにより、NPOとして実際に「場」を持っていくのか、持つとすると、それはどこに・どのような形であれば可能性があるのかについて、より現実的に考えざるをえなくなったはずである。また、施設使用にあたっては、区との調整や近隣地域との関係性などの難しさも実感しただろう。

3. 今後の展望と提言

近年、NPOが遊休施設などを活用した公的な施設を運営するケースが増えており、「芸能花伝舎」（新宿区／社団法人日本芸能実演家団体協議会※）、「にしすがも創造舎」（豊島区／NPO法人アートネットワーク・ジャパン、NPO法人芸術家と子どもたち）、BankART1929（横浜市／NPO法人BankART）、「STスポット」（横浜市／NPO法人STスポット横浜）、「急な坂スタジオ」（横浜市／NPO法人アートネットワーク・ジャパン、NPO法人STスポット横浜）など、地域の活性化、ネットワークづくりや人材の育成、情報発信の役割を担っている。いずれも、運営主体にとっては重要な活動の拠点であるとともに、地方公共団体にとっては文化政策や地域計画に位置付けられた芸術文化振興、地域活性化の拠点として機能している（※日本芸能実演家団体協議会は社団法人であるが、公共性の強い社団法人であり、広義の意味でNPOと考える）。

ただし、NPOにとって「場」を持つことは重要であるが、NPOによる場の運営、特に公の遊休施設の活用は、資金や人材の確保、行政や地域との連携手法など、検討課題が多いことも事実である。十分に検討を尽くさないと、NPO、行政、市民いずれにとっても不幸な結果となる。特に、行政が政策的な位置付けを明確にすることは不可欠である。

今後、ZEROキッズでは、次の2つの検討が必要になるのではないだろうか。一つは、NPOとしての今後の方向性と「場」の位置付けについて、内部で検討を重ねること。二つ目は、長年かけて培ってきた財産であるアーティスト・芸術団体、NPO関係者、教育関係者、有識者等のネットワークの中で、中野区における「子ども・アート・まち」のあり方を議論し、その中で中野区の文化・交流の拠点としての「場」が担う役割、NPO法人ZEROキッズが担う役割、その他の関係団体との関係性を、見取り図として描くことである。

一方、芸術団体やNPO相互のネットワークづくりが課題である中野区としては、今回の「キッズアートハウジング事業」の成果を逃す手はない。NPO活動は行政が音頭をとって振興するものではない。しかしNPOが生まれてまだ10年。既存の行政のしくみや制度は、NPOの活動を前提としていないものがほとんどだとすると、NPOという新しい公共の担い手に対する協力・支援は、行政が発想を転換し智恵を絞らなければできないのである。

「キッズアートハウジング事業」で培ったネットワークは、目に見えない、しかし大切な社会資源である。近年、人と人との関係性がもたらす信頼、交流、ネットワークなどのソフトの資源を「ソーシャル・キャピタル」と呼んでおり、その重要性が認識され始めている。ZEROキッズの「キッズアートハウジング事業」は、まさに「ソーシャル・キャピタル」を培うものであり、今後も大事に育まなければならない。地域に対して熱意と責任を持ったNPOへの協力・支援は、5年後、10年後の地域の力となるはずである。

「活動拠点」を持つ意味と可能性

聖徳大学 准教授 神谷明宏

1 はじめに

なかの ZERO ホールの完成記念イベントのために集まった地域の演劇好き、コーラス好きの子どもとおとなが、まさかその後何年にも亘って活動を続け、NPO 法人まで作ってしまうなど誰が予想しただろうか。なぜ、このような絆が生まれたのかということ考えたとき、この NPO 団体の地域への関わりの姿勢が明らかになってくる。確かに当初はミュージカルを作り、公演を成功に導くという目的を持っていたかもしれないが、ミュージカルというアートを素材としたことで、1993 年の結成以来続けてきた音楽・演劇・身体表現活動・造形活動・映画制作・文化活動等と多分野にわたる数々のワークショップを体験したことに由来している。いつしか単にミュージカルの公演を行うことを越えて、「子ども」「地域」「文化」の3つのキーワードを軸に、子どもと大人が人間として地域住民としてどのように生きるべきかということについて模索し続ける活動へと結びついていったのだといえる。その結果自分たちのためだけでなく、自分たちを取り巻く地域社会を考える活動団体へと発展したのである。

2. 拠点を持つということ

15 年間のミュージカル創作活動の中で、世代や職業を越えた地域住民同士が関わることによって生み出される自己表現や情報発信力や文化創造力といったパワーの大きさを考えると時間貸しの研修場所だけの出会いの限界に気づくのは当然の成り行きであったろう。そのような過程で、100日という限定された中ではあったが「キッズアートハウス」は当初予想した以上の成果を上げることができた新しい地域活動の実践の実験場であったと評価することができる。

それは特に行政ではなかなか成し得ない地域活動の拠点が作り出されたことに大きな意味がある。それは行政によって運営される施設は、どうしても活動が細分化、限定化される傾向にあり、地域住民のニーズとマッチしていないことも多いのが原因である。それがこの「キッズ・アートハウス」では、行政的区分で考えると児童館・チルドレンズミュージアム・公民館・子ども図書館・子育て支援センター・ミニコンサート劇場とよくまあこの狭い空間に多くの機能を詰め込んだものだと感心させられるほどである。

その1つ1つの活動が地域住民のニーズに密着していることも大きな特徴で、それ各々の活動プログラムへの参加人数の多さが示している。もっとも、企画・運営サイドが地域住民なのだから当たり前といえばそれまでであるが。さらに特筆すべきは、ここで実施された活動プログラムのバラエティーの多さよりも質の高さにある。子どもと母親を中心としながらも地域住民のさまざまな層に働きかけた活動実践をし、あたかもここが、子どものコミュニティーセンターのような機能を果たしていたことである。活動のほとんどがスタッフとの人間関係の中で生まれ、まさに典型的な地域の拠点活動と考えることができる。蛇足であるが、行政がこのような活動実践を行うとすると、いったい経費は

どのくらいかかるものであろうか。本来はこのような運営を可能にする地域密着型の NPO が今日の指定管理者制度等の施設で多く活用されることが重要なのであるが、実態はなかなか難しいのが現状である。

3. 拠点としての課題

確かにこのような大きな成果を上げた「キッズアートハウス」であるが一方には大きな課題もある。私はこの活動が欧米で生まれた地域のさまざまな問題を解決するために活動を行う民間のセツルメントハウスによく似た活動だと感じているのであるが、このような活動にはいわゆるドネーション（寄付）の発想が不可欠である。つまり、活動資金の大きな部分を企業の利益の寄付が占めていたり、遺言による個人の遺産の寄付が占めていたりすることによって、潤沢とは言えないまでも、ある程度の財政基盤を持っているということである。ところがこのような文化的発想の乏しい我が国では、多くのボランティア組織や NPO が行政の補助金をその活動資金の中心としているケースが多いのが現実である。この「キッズアートハウス」も財政的には不安定であり、場所も含め行政の都合で 100 日以降の保障はないのが現実問題として当初から懸念されていた。

やはり今後は欧米の組織のように組織内に資金集めのプロともいえるべき手腕を持つスタッフを置き、運営資金の確保に努めることが大きな課題となるであろう。なぜならば、一度起業した活動を途中で中止するのであれば、そのサービスの利用者は安住の地を追われ、また始めから自己実現の場所探しをする必要に迫られることになるからである。その意味では活動の継続が地域における拠点活動の必要条件となるからである。もちろん当初より「100日キッズアートハウス」と銘打ち、実験的な活動拠点としての試みであったことを考えれば免責されるのかもしれないのではあるが。

4. まとめとして—新たな挑戦への期待感—

現在子どもの表現活動に取り組み、演劇やミュージカル公演に力を注ぐ団体は数多い。しかし子どもと子どもを取り巻く人々全ての活動を広くアートとして捉え、ワークショップなどから学んださまざまな知見を地域に還元していこうとまで考えている団体は非常に稀であると思われる。私にとってはそれを一歩すすめて活動拠点を持つという体験を得たこの「ZERO キッズ」という NPO が今後どのような活動を展開するのか大いに気になるのであるが、一方この 15 年という活動年月の中にその行く末を示すものが生まれつつあるような気もしてならない。それは次世代へのバトンタッチということである。

メンバーの中には当然高校生以上の若者が多く育っていることだろう。この ZERO キッズ二世たちの今後の動向がそれである。ZERO キッズが生まれた頃より、社会状況はますます厳しくなっている。さまざま悩みを抱えた若者層や高齢者は増加の一途をたどり、地域での自己実現は自らの手によって起こさなければいけない時代が迫ってきている。第一世代の創始者たちはその課題を子どもたちに伝えてきたはずである。そのメッセージを受け取った次世代の者たちはどのようにそれらを理解し消化しているのか、それこそがこの組織の将来の道標になることに他ならないと今思っている。

新しい4つの提言

東京環境構造センター主宰 コミュニティデザイナー 中埜 博

はじめに、こども環境学会の「活動賞」おめでとうございます！

「こども環境」学会とは、全国の有識者が集まって作るこどもの環境について真剣に取り組むアカデミックな学会とのことで、そのような機関から賞をいただけるなんて素晴らしいことだと思います。ZERO キッズは今から15年前、中野区のお母さんたちから始まった、本当に最初は素人の集まりでした。それがこの15年の間に、ミュージカルを作り、地域の人と地域のNPOを結びつけ、日本中にそのオリジナル曲を売って、卒業式で歌われるまでになったのですから、当然かもしれません。しかし、この賞の本当の意味は、こどもや文化的政策が進んでいるとは必ずしも言えない中野区から、こども環境の先進的文化モデルが生まれた事にこそあります。何故なら、中野区が、このような全国に発信できる「こども環境をつくるモデルとしてのZERO キッズ」発祥の地として、堂々と全国に誇れることとなったのですから。これは、中野区への素晴らしい贈り物です。

そこで、私は今後のZERO キッズの展開に対し、以下の4つの提言を申し上げたいと思います。

1. 恒常的活動拠点の確保

ZERO キッズが今回の成果を踏まえてこの先さらに発展的に活動を展開するには、恒常的な活動拠点の確保が不可欠です。そこで、この活動賞に見合うような小さな空間を、ZERO キッズを中心とした活動拠点として、中野区からZERO キッズご褒美プレゼントしてもらってはいかがでしょうか。区長をはじめとして中野区の行政サイドに少しだけお骨折りいただければ、きっと見つかるでしょう。区議のみなさんにもご協力いただければ、さらに容易となるでしょう。もちろん、この空間を管理するのは、キッズだけではできません。後述の提案ででてくる「キッズアートカンパニー」（仮称）のような、責任ある管理会社の創設が必要でしょう。区は、そういうスペースを、このような会社に委託管理させるだけで、一円も出費をする必要はありません。（もちろん 出していただけるならば喜ばしいことですが）勿論今度は、100日ではなく、1000日いや、10000日くらいの長きにわたり、貸していただきたいのです。さもないと、継続的に子どもの環境を育てていくことは、極めて困難であると言わざるを得ません。

2. 「アートによる見えないものを見る目」を大切にしよう

アート、アートとよく言いますが、いったいこの言葉の意味するものとは、何なのでしょう。私は、「アート」とは目に見えないものを心に見せてくれる「共感」のようなものだと思います（映画などを見て感動したときに流す共感の涙のようなものです）。それでは、この「アート」って何をすることなの？という疑問が生じるでしょう。その答えこそ、昨

年 100 日アートハウスの中でやった事すべてである、と言えるのです。こどもたちの遊びも、ワークショップも、絵本も、ミュージカルも、ベリーダンスも、お絵描き会も、ハロウィーンも、大きな樹の葉っぱづくりも・・・昨年アートハウスでやった事はみんな「アート」だったのです。みんな、「ひとつの共感」を確かめ合う行為だったのです。

アートをこのように考えれば、この目に見えない「共感」こそが、お母さんがたや仲間の皆さんの心に呼びかけ、代表である佐々木さんや、活動を支える小山さん、倉橋さんの苦労を後押しして ZERO キッズの活動を 15 年間も間続けることができた本当の力の源なのではないでしょうか？この「共感のこころ」は、「ミュージカル」づくりに一番表れていると思います。今年のミュージカルでは「ふしぎの森」は燃えてなくなりなるそうです。たとえ森は焼け落ちて、この「こころ」は無くなりません。この「アート」のこころこそ、キッズが共有する本当の「ふしぎの森」です。

少々抽象的な話に感じられるかもしれませんが、ZERO キッズの本質的な目標は、大人も子供もいっしょにこの「共感」をうみだす「場」づくりをしていくことである、という認識を踏まえ、新しい拠点づくりの共通目標としていくべきではないでしょうか。

3. 「新しいキッズアートハウス」づくり

私たちは、「キッズアートハウス」から学んだ大事な教訓があります。キッズアートハウスの 100 日間で、のべ 4500 人の来場者がありました。この数字は、キッズに所属する人の知り合いだけではこの短期間では到底集まらないような大きいものです。どうしてこんなに沢山の来場者があったのでしょうか？それは、多くの人が、リピーターとなったことと、それらの人がいつも新しい人を連れて来てくれたからです。その結果として、様々な人々がやってきました。赤ちゃんをつれたおかあさん、ママさんベリーダンスの皆さん、隠れた絵や芸術の才能を持った子どもや大人たち、絵本が好きな大人たち・・・これまで ZERO キッズとは全くつながりのなかった人々も数多く訪れることとなりました。その結果、多忙のあまり、キッズの代表の佐々木さんは危うく体調を崩しそうになったそうです。

ここから、私たちは学ばなければなりません。何故こんなに多くの人々が集まったのか？それは、宣伝されたからとか、こういう仕掛けやスペースがあったから、といったことが理由ではなかったのです。そこに来た人が本当に楽しく、面白い体験ができ、それを他の人にも経験して欲しいという「動機」が生まれなければ、人は人を連れて繰り返し戻って来ないのです。このたゆみなき「動機」づけこそ、このアートハウスの持っていた、一番の特徴だったのです。訪れる度に色んな変化がある・・・今日はピアノが来た、今日は絵本の部屋ができた、今日はコスチュームが置いてあった、今日はカボチャがあった、今日は葉っぱが増えていた、今日は鏡が来た、ソウルのコーラスができた、等々・・・。

それは、キッズの仲間と、こどもたちと、代表の佐々木さんをはじめとした大人のひとたちが常に工夫し続けたからです。これは、単なる施設管理ではありません。**使用する動機づくりも含めた管理**なのです。これが、**生き生きした施設の使用管理者の大切な仕事**なのです。これはもう、ZERO キッズのミュージカルづくりを超えた動きです。そしてこの環境づくりこそ、子どもも大人も楽しみかつ、学んでいく新しい活動なのです。キッズが、

今年のミュージカルのように、やさしい魔女たちに見守られている時間は終わったのです。ここからは、キッズの活動が新しい世界へ羽ばたくための苦しい体験となるでしょう。これからは、大人たちも新しい環境づくりに取り組む必要があるのです。

この提言は、新しい「キッズアートハウス」づくりです。これは、ZERO キッズが責任を負うのではなく、昨年のお出合いでつながったすべての大人たちがつくる、**子供と大人の両方のためのハウスを生み出す事**なのです

4. 「キッズアートカンパニー」の提案

アートは、上述のように「共感するところ」、キッズは「子ども環境」、カンパニーとは「パン」のことです。「パン」・・・あの食べるパン？そうです。みんなで食べる一つのパンという意味。つまり、みんなで作って、食べて、生命を生み出す源の組織のことです。会社ともいいます。これは、子ども環境を共同で守り、共感し合える場をつくる組織です。ぜひ、このマネジメント（つくり守る）組織を生み出しましょう。これがないと、ZERO キッズを継続していくための確固とした足掛かりが得られません。キッズが発展的に継続していくには、安定した練習場所を確保し、衣装、舞台準備も万全にでき、安全管理ができなければなりません。それに、何よりもキッズの組織維持のための会計等事務手続き、助成金の手続きなど、本当にキッズの裏方の仕事は大変なのです。もう既にボランティアの域を超えています。環境学会から賞を貰ったということは、もう素人のボランティアの慈善団体のレベルは超えていますよ、とのお墨付きを貰ったようなものです。しかも、もうキッズの卒業生が大人になりつつあります。キッズは大人の世界と切り離せない時代が否応なくやってきているのです。キッズの運営をキッズの卒業生がになう・・・これが一番理想でしょう。キッズの卒業生たちはキッズのいいところも悪いところも知っています。そして、現在のキッズの子どものところに一番近い世代なのです。

命あるものは必ず代謝して、新しい世代に、命を譲っていくものです。そこで、「キッズアートカンパニー」の提言ですが、基本的な考え方は、この「カンパニー」がキッズ関連のNPOのネットワークのまとめ役になります。そして、新しい「アートハウス」を生み出し（希望的には区長の応援を得て）その運営管理をします。そして、アートハウスで、たくさんのひとが使いたがる使い方の発見と動機づけとその創出を行うのです。キッズの事務も、できればキッズの卒業生が担います。たくさんの人が毎日出入りし、集う「ハウス」には、それこそ「アート」の心がうみだされなければなりません。この「カンパニー」はZERO キッズが生み出した『アート』のここを継承する組織であり、キッズの力を保全し、新しい人たちに譲り渡していく使命をもっているのです。

ここで、昨年の「キッズミュージアム」の報告書の言葉を最後にくりかえさせて下さい。

「さあ、もう一度、あの『キッズアートハウス』で目を輝かしていた子供たちを思い出して下さい。本当に、かれらの生命が輝いていたじゃありませんか？もっと、もっと、みんなで、みんなの生命を、いっしょに輝かせましょう！」



夢をつくろう！ZERO キッス



資料

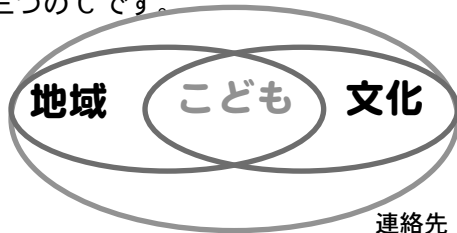
特定非営利活動法人 **ZERO** キッズ

東京都中野区のなかの ZERO 大ホールの開館記念事業（1993）をきっかけに結成。「そうぞう力（想像力&創造力）」をテーマに、音楽・演劇・ダンス・マイム・造形活動・自然体験などのワークショップにより五感をフルに使って、イメージと感動を表現に繋げる教育活動を行う。

2003年にNPO法人の認証を受ける。活動の集大成が3つの創作ミュージカル「森のふ・し・ぎ」（1998）「海のふ・し・ぎ」（2000）「そらのふ・し・ぎ」（2003）。楽譜、CDとなり全国の小中学校で活用されている。2005年第14回音楽教育振興賞（音楽教育振興財団／毎日新聞社）受賞。今後の目標は新たな創作ミュージカル（2009春予定）と、「そうぞう力」を育む教育・文化・ネットワークの拠点としてのチルドレンズミュージアムの構築です。

ZERO キッズのホームページ <http://www.c-c-cnet.org> (C-C-C らんど)

C-C-CのCは、Children（子ども）・Community（地域）・Culture（文化）の三つのCです。



Children（子ども） **子どものパワーで**
Community（地域） **地域をつなぎ**
Culture（文化） **文化をつくる**

連絡先 TEL&FAX 03-5385-9068 info@c-c-cnet.org

東京都中野区本町 5-27-3-103

<出版物>楽譜:「子どもたちと創る地球ファンタジー海のふ・し・ぎ」「そらのふ・し・ぎ SONG BOOK」(音楽之友社)、CD「海のふ・し・ぎ」(ビクターエンタテインメント)、CD「そらのふ・し・ぎ」「見えない翼」(自主製作)



2006 活動より 茨城県常陸大宮市
特別養護老人ホーム「みわ」で交流



文部科学省委託事業 文化体験プログラム支援事業
「キッズミュージアム」でクレイアニメを制作

ZERO キッズの歩み



- 1993 年：中野区民ホールなかの ZERO の開館記念区民参加事業
200 人の親子で「111 匹のねこたちのゆかいな音楽会」開催（なかの ZERO 大ホール）
- 1994 年：設立、「表現あそび」「こどものためのオペラ銀河鉄道」（なかの ZERO 大ホール）
「中野区中央図書館開館 1 周年記念ライブ」出演
- 1995 年：「ゆかいな春の音楽会」（ZERO 小ホール）「日本の音みつけた」（芸能小劇場）開催
「音あそび」のワークショップを開始
- 1996 年：「ゆかいな音楽会'96」開催（第二中学校体育館）
- 1997 年：山形県立鶴岡養護学校との交流音楽会「月夜のネコのワクワクパーティー」開催
（なかのサンプラザ）
「続・11 ぴきのネコ予告編」公演（ZERO 小ホール）
- 1998 年：創作ミュージカル 地球ファンタジー『森のふ・し・ぎ』公演（ZERO 大ホール）
「演劇ワークショップ」、中野区こどもフォーラム参加
- 1999 年：障害児支援交流音楽会「ふしぎの音のパラダイス」山形県鶴岡養護学校と音楽交流
（杉並ヴァーシティホール）
大人も一緒に「ゴスペル入門講座」開催
- 2000 年：創作ミュージカル 地球ファンタジー『海のふ・し・ぎ』（ZERO 大ホール）公演
中野区教育フォーラム参加、中野区教育委員会での地域の教育の事例発表
- 2001 年：CD 製作、「Across The Road CD 完成記念ライブ」開催（野方 WIZ ホール）
障害児支援交流音楽会「KIDS&ゴスペル深海魚のハートフルライブ」開催
ウェブサイト C-C-C らんどアップロード（<http://www.c-c-cnet.org>）
コンピュータワークショップ開始
- 2002 年：C-C-C（Children-Community-Culture）ふおーらむを開始、「想像力・創造力」を
育くむ教育の理論と実践を包括するネットワークを目指す。
「子どもたちとつくる 地球ファンタジー海のふ・し・ぎ」（音楽之友社刊）出版

- 2003 年：特定非営利活動法人の認証を受けて新たな活動の開始
総合的な学習のための劇音楽集「地球ファンタジー海のふ・し・ぎ」の CD をピク
ターエンタテインメントからリリース
創作ミュージカル「そらのふ・し・ぎ」公演（ZERO 大ホール）
- 2004 年：東京都人権擁護委員会主催人権作文発表会で「そらのふ・し・ぎ」上演
小学校春の合唱指導セミナー、小中学校夏の合唱指導セミナーに講演と実演
ウクライナのハリコフ子どもバレエ団と文化交流会開催（Bumbu）
「そらのふ・し・ぎ SONG BOOK」（音楽之友社）出版
文部科学省委託事業「地域子ども教室」「家庭教育支援推進事業」に事業協力
- 2005 年：音楽教育振興賞顕彰部門受賞（音楽教育振興財団／毎日新聞社主催）
夏の合唱セミナー出演（谷川俊太郎・賢作親子と共演）
「そらのふ・し・ぎ」レコーディング（クラブチッタで）、CD リリース
茨城県美和村で星空合宿
音楽教育振興賞受賞記念公演「Space ファンタジーそらのふ・し・ぎ 2005」公演
文部科学省委託事業「地域子ども教室」「家庭教育支援推進事業」に事業協力
- 2006 年：第 39 回全国子ども会育成中央会議・研究大及び全国子ども会子どもが主人公の居
場所づくり推進研究大会において講演と実演（オリンピック記念青少年センター）
文部科学省委託事業「家庭教育支援推進事業」に事業協力、
文化庁文化体験プログラム事業でクレイアニメのワークショップを開催
茨城県常陸大宮市と地域間交流（やまびこ合宿）、日本の歌で世代間交流
中野区公益活動助成事業として「こども・まち・アート」交流見本市「夢のキッズ
ミュージアム 2007」を開催、チルドレンズミュージアムの具現化に向けてネットワ
ークづくりに着手
- 2007 年：子どもゆめ基金助成活動「こども・まち・アート交流プロジェクト」で地域交流。
中野区公益活動助成事業「キッズミュージアム」壁画制作や造形活動、中高生のための
演劇ワークショップ、「コミュニティアートネットワーク推進事業」（大人の学習会）
新作ミュージカルの創作のための自然体験（御殿場、ズーラシア、江古田の森）
キッズハッピー隊（就学前の親子対象事業）開始
- 2008 年：3 月「Kids' Alive!～夢のキッズミュージアム 2008」（なかの ZERO 大ホール）
キッズアートハウジング事業（社会福祉機構平成 20 年度子育て支援基金助成事業）と
して、保育園跡に 100 日キッズアートハウスを開設。
ミュージカルの創作を通じた文化芸術体験交流事業（文化庁「文化芸術による創造のま
ち支援事業」）を中野こども・まち・アート実行委員会として実施。

子どもゆめ基金教材開発の助成事業として「音の楽校～音をきこう、つくろう、楽しもう」。自然体験活動（ロバの学校、森と水の学校）

2009年；こども環境学会活動賞受賞

5月 新作ミュージカル「ふしぎの森へ・・・」公演。

教材開発「コミュニケーションゲーム～グループワークトレーニングを活用して」。

中野こども・まち・アートネットワーク事業 予定

ZERO キッズの活動の特色



★テーマはそうぞう力 (imagination & creation)

そうぞう力 (imagination & Creation) を一貫したテーマとして五感をフルに使う多様な表現ワークショップのプログラムを行っている。

★設立の動機は、母親たちの我が子の未来への危機感

設立のきっかけは、なかの ZERO 大ホールの開館記念区民参加事業(1993)だが、地域の少年少女合唱団とママさんコーラスの母親たちが中心となって「親と子のオペレッタ実行委員会」を立ち上げ、こどもを主体とした開館記念のステージを企画して、区内全域に呼びかけたのが始まりである。開館記念事業後に ZERO キッズとして継続活動を行うことになった動機は、我が子の未来への危機感であった。本番に至る迄の練習中のこどもたちが、楽譜のある歌や振付けされたダンスはできるのに、台詞や動きになると自分で考えて動くことができない姿を目の当たりにして、体験重視の活動から表現に向き合っていこうと ZERO キッズの活動を始めた。

★活動は多種目、ジャンルを超える

音楽、演劇、身体表現、造形活動、映像製作、日本文化・・・と様々なジャンルに挑戦、年に数回の宿泊を伴う自然体験やグループワークトレーニングなど。現在の年間活動日数はのべ70日、400時間以上となる。

★異年齢集団、世代を超える

参加するこどもたちは小学校1年生から高校生までの異年齢集団を形成している。また、就学前のこどもと親対象の「キッズハッピー隊」というグループや、大人の「ゴスペル宇宙海賊」など、幅広い年代が参加し、交流している。

★自分で考え、みんなの力を合わせてモノをつくる

どの活動も異年齢集団の中で他者と関わりながら、それぞれが自分で考えて行動しながら皆で創り上げていく活動である。数年に一度行われる創作ミュージカルの公演は活動の集大成ともいえるもので、今までに「森のふ・し・ぎ」(1998)「海のふ・し・ぎ」(2000)「そらのふ・し・ぎ」(2003, 2005)というファンタジー三部作 (CD や楽譜も出版) がある。現在は 2009 年春公演の新作を創作中。

★体験から感動を伝える

自然体験や創作のためのワークショップの中で、こどもたちの体験から出た言葉や動きを集めてミュージカルを創っていくのが ZERO キッズのミュージカルである。台本や歌の中に、今のこどもたちの日常や夢、感動が詰まっている。そしてそれを伝えるためのコミュニケーション力や表現力の向上も、日々の活動テーマである。

★フロもアマチュアも大人が夢中になる

様々なジャンルの専門家がバックアップし、保護者だけでなくこどものいない人たちもミュージカルに参加している。大人が一生懸命な姿を見せることでこどもが本気になる。またその逆もある。こどもの発想からつくるミュージカルだが、それを舞台の上で見せる形にする責任は大人が負い、作品としての完成度も同時に追求している。

★生み出した作品は全国に普及

今までに上演した作品は、楽譜や CD となり、全国の学校での学芸会や卒業式の歌などで数多く歌われている。

★こどもとアートが地域をつなぐ

2001 年からこどもとアートの場づくりを目指し、「春休み Kids' ふおーらむ」としてワークショップとこどもたちの作品展示のスペースを春休みの期間中などに開設し、将来的なチルドレンズミュージアム構想を温めてきた。「夢のキッズミュージアム 2007」「Kids' Alive!～夢のキッズミュージアム 2008」を経て、2008 年夏から秋にかけて、閉園になった保育園跡に 100 日間のキッズアートハウスを「こどもとアートが出会う場所」「みんなの夢を形にする場所」として実験的に開設、こどもとアートの力で人をつないでいく場の運営を準備中である。様々な子育て・教育・アートの団体とのネットワークが確実に育っている。

ZERO キッズの作品



地球ファンタジー
「海のふしぎ」
楽譜（音楽之友社）と
CD（ビクターエンタテインメント）

Space ファンタジー
「そらのふしぎ」
楽譜（音楽之友社）
と CD（自主製作）





2008年度独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金助成事業

「キッズアートハウジング事業」実施報告書

キッズアートハウスは未来へ向かう

2008年3月

特定非営利活動法人 ZERO キッズ

編集：佐々木香・中埜博・笹川万国・山口敦

写真：倉橋文子、小山郁子、中埜博、長瀬涼子、渡部瑞穂、大柴美子、野口博志

イラスト（切り絵）ZERO キッズのこどもたち

印刷：東京書籍印刷株式会社

164-0012 東京都中野区本町 5-27-3 寿マンション 103

Tel&Fax 03-5385-9068

Eメール info@c-c-cnet.org

ZERO キッズのホームページ <http://www.c-c-cnet.org>